

管理クイックスタート

# Novell. ZENworks® 10 Asset Management SP2

10.2

2009年5月27日

[www.novell.com](http://www.novell.com)



## 保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、すべての輸出規制を遵守して、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出については、「[Novell International Trade Services \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/)」の Web ページをご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2007-2009 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本文書に記載されている製品に実装されている技術に関する知的所有権を保有します。これらの知的所有権は、「[Novell Legal Patents \(http://www.novell.com/company/legal/patents/\)](http://www.novell.com/company/legal/patents/)」の Web ページに記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.  
404 Wyman Street, Suite 500  
Waltham, MA 02451  
U.S.A.  
[www.novell.com](http://www.novell.com)

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell のマニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

## **Novell の商標**

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

## **サードパーティ資料**

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。



# 目次

このガイドについて	7
<b>1 管理クイックリスト</b>	<b>9</b>
1.1 ゾーン設定	9
1.2 ZENworks Adaptive Agent の展開	10
1.3 Asset Management	11
1.4 システムメッセージおよびレポート	11
<b>2 管理ツールクイックビュー</b>	<b>13</b>
2.1 ZENworks コントロールセンター	13
2.1.1 ZENworks コントロールセンターへのアクセス	13
2.1.2 ZENworks コントロールセンターの操作	14
2.2 zman コマンドラインユーティリティ	15
2.2.1 ディレクトリ	15
2.2.2 構文	15
2.2.3 コマンドのヘルプ	15
2.3 zac コマンドラインユーティリティ	16
2.3.1 ディレクトリ	16
2.3.2 構文	16
2.3.3 コマンドのヘルプ	16
<b>3 ゾーン設定</b>	<b>19</b>
3.1 デバイスの構成：フォルダとグループ	19
3.1.1 フォルダ	19
3.1.2 グループ	21
3.2 デバイスを登録する	24
3.2.1 登録キー	24
3.2.2 登録ルール	25
3.2.3 デバイス命名テンプレート	27
3.2.4 その他の情報の参照場所	28
3.3 ユーザソースへの接続	28
3.4 ZENworks 管理者アカウントの作成	30
3.5 環境設定の変更	32
3.5.1 ゾーンでの環境設定の変更	33
3.5.2 フォルダでの環境設定の変更	33
3.5.3 デバイスでの環境設定の変更	34
<b>4 ZENworks Adaptive Agent の展開</b>	<b>37</b>
4.1 ネットワークデバイスの検出	37
4.2 デバイスのインポート	38
4.3 ZENworks Adaptive Agent のインストール	39
4.3.1 手動インストール	39
4.3.2 ZENworks コントロールセンター展開タスク	40

<b>5</b>	<b>Asset Management</b>	<b>47</b>
5.1	ソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集	47
5.1.1	デバイススキャンの開始	48
5.1.2	デバイスインベントリの表示	48
5.1.3	インベントリレポートの生成	49
5.1.4	詳細の参照場所	50
5.2	ソフトウェア使用状況の監視	50
5.3	ライセンスコンプライアンスの監視	51
5.3.1	ソフトウェア購入を記録する	53
5.3.2	ライセンス製品の作成	55
5.3.3	コンプライアンスデータの表示	57
<b>6</b>	<b>デバイスリタイア</b>	<b>59</b>
6.1	管理対象デバイスをリタイアする	59
6.2	インベントリのみデバイスをリタイアする	60
<b>7</b>	<b>システムメッセージおよびレポート</b>	<b>61</b>
7.1	システムメッセージの参照	61
7.1.1	メッセージのサマリの参照	61
7.1.2	メッセージの承認	62
7.1.3	詳細の参照場所	64
7.2	ウォッチリストの作成	64
7.3	レポートの生成	65

# このガイドについて

この『ZENworks 10 Asset Management 管理クイックスタート』は、ZENworks® システムを管理するための基本事項を短期間で習得するために役立ちます。ZENworks システムがインストールされている必要があります。まだインストールしていない場合は、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』を参照してください。

このガイドの情報は、次のように構成されます。

- ◆ (9 ページ) **管理クイックリスト**: ZENworks システムの設定と監視、管理対象デバイスへの ZENworks Adaptive Agent の展開、およびデバイスに対する管理タスクの実行に必要な項目のチェックリストが提供されています。
- ◆ (13 ページ) **管理ツールクイックビュー**: 主要な 2 つの ZENworks 管理ツールである ZENwork コントロールセンターと zman コマンドラインユーティリティを紹介しています。
- ◆ (19 ページ) **ゾーン設定**: 実行する管理タスクを最適にサポートするために、ZENworks システムの設定手順について説明しています。
- ◆ (37 ページ) **ZENworks Adaptive Agent の展開**: ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールする手順について説明しています。ZENworks を使用して管理を行う場合は、すべてのデバイスに Adaptive Agent が必要です。
- ◆ (47 ページ) **Asset Management**: デバイスのソフトウェアとハードウェアのインベントリの実行、ソフトウェア使用状況の監視、およびソフトウェアのライセンスコンプライアンスの監視について説明しています。
- ◆ (59 ページ) **デバイスリタイア**: 管理ゾーンからのデバイスのリタイアについて説明しています。
- ◆ (61 ページ) **システムメッセージおよびレポート**: ZENworks システムの動作に関する情報を入手する方法を紹介しています。

## 対象読者

本ガイドは、ZENworks システムの設定、ZENworks システムの監視、あるいはデバイスまたはユーザの管理に関する ZENworks のタスクを実行するすべてのユーザ向けに作成されています。

## フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または [Novell Documentation Feedback サイト \(http://www.novell.com/documentation/feedback.html\)](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスして、ご意見をお寄せください。

## 追加のマニュアル

ZENworks 10 Asset Management には、製品について学習したり、製品を実装したりするために使用できるその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式) も用意されています。追加のマニュアルについては、『ZENworks 10 Asset Management (<http://www.novell.com/documentation/zam10>)』を参照してください。

## マニュアルの表記規則

Novell のマニュアルでは、「より大きい」記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (\*) は、サードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (\\) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。Linux\* など、スラッシュを使用するプラットフォームの場合は、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。

# 管理クイックリスト

# 1



ZENworks® サーバ (または複数のサーバ) をインストールしたら、Novell® ZENworks 10 Asset Management SP2 の時間の節約に役立つすべての機能を使用できるようになります。次のセクションは、ご使用の環境内のデバイスを効果的に管理する手助けとなる設定、展開、管理、および状態監視の概念およびタスクを簡単に紹介するように構成されています。




- ◆ 9 ページのセクション 1.1 「ゾーン設定」
- ◆ 10 ページのセクション 1.2 「ZENworks Adaptive Agent の展開」
- ◆ 11 ページのセクション 1.3 「Asset Management」
- ◆ 11 ページのセクション 1.4 「システムメッセージおよびレポート」

## 1.1 ゾーン設定

デバイス向けのソフトウェアとハードウェアインベントリのコンパイル、デバイスでのソフトウェア使用状況の追跡、ライセンスコンプライアンスの監視などを開始する前に、管理ゾーンが ZENworks 管理機能をフル活用できるように設定されているかを確認するために、いくつかの設定タスクを完了しておく必要があります。

表 1-1 ゾーン設定タスク



タスク	詳細
 デバイスの構成用フォルダおよびグループの作成	<p>ZENworks 環境設定の適用および同様のデバイス上でのタスクの実行に関するオーバーヘッドを簡単にするためにデバイスをフォルダおよびグループに構成します。個々のデバイスで割り当てを行ったり、タスクを実行するのではなく、フォルダまたはグループにある各デバイスで割り当てやタスクを継承しながら、フォルダやグループを管理できます。</p> <p>方法については、19 ページのセクション 3.1 「デバイスの構成：フォルダとグループ」を参照してください。</p>
 登録キーまたはルールを作成	<p>ZENworks Adaptive Agent は管理するそれぞれのデバイスにインストールする必要があります。ZENworks Adaptive Agent をデバイスに展開するとき、デバイスは管理ゾーンに登録されません。</p> <p>登録キーまたは登録ルールを使用して、自動的にデバイスを適切なフォルダおよびグループに割り当て、正しい環境設定割り当てを迅速確実に受け取ることができます。</p> <p>方法については、24 ページのセクション 3.2 「デバイスを登録する」を参照してください。</p>


タスク	詳細
 ユーザソースの追加	<p>ZENworks の信頼されたユーザソースを提供する 1 つまたは複数の LDAP ディレクトリに接続できます。ユーザソースを追加すると、ZENworks 管理者アカウントと LDAP ユーザアカウントを関連付け、デバイスと、デバイスを主に使用するユーザを関連付け、ユーザを組み込むアセットインベントリと管理レポートを実行することができます。</p> <p>方法については、<a href="#">28 ページのセクション 3.3 「ユーザソースへの接続」</a>を参照してください。</p>
 追加管理者アカウントの作成	<p>インストール中に、デフォルトの ZENworks 管理者アカウント (Administrator) が作成されます。デフォルトの Administrator アカウントは管理ゾーン全体に権限を提供します。</p> <p>ゾーンへのアクセスが制限された追加の管理者アカウントを作成できます。たとえば、ライセンスコンプライアンスレポートを実行する機能のみを提供するアカウントを作成することもできます。</p> <p>方法については、<a href="#">30 ページのセクション 3.4 「ZENworks 管理者アカウントの作成」</a>を参照してください。</p>
 ゾーン環境設定の変更	<p>ゾーン設定は最も一般的な設定を提供するために事前設定されています。必要に応じて設定を変更できます。</p> <p>方法については、<a href="#">32 ページのセクション 3.5 「環境設定の変更」</a>を参照してください。</p>

## 1.2 ZENworks Adaptive Agent の展開

ZENworks Adaptive Agent は、ZENworks サーバと通信して、デバイスで管理タスクを実行します。管理するすべてのデバイスに Adaptive Agent を展開する必要があります。Adaptive Agent を展開することにより、エージェントファイルをインストールし、デバイスを管理ゾーンに登録します。




表 1-2 展開タスク

タスク	詳細
 デバイスの検出	<p>ZENworks コントロールセンターを利用してエージェントをデバイスに展開するよう選択した場合は、まず初めに管理ゾーンにデバイスを追加する必要があります。これはネットワークディスカバリを実行することによって行うことができます。</p> <p>方法については、<a href="#">37 ページのセクション 4.1 「ネットワークデバイスの検出」</a>を参照してください。</p>
 デバイスのインポート	<p>また、カンマ区切り値 (CSV) ファイルからデバイスを管理ゾーンにインポートすることもできます。各デバイスエントリは IP アドレスまたは DNS 名を含んでいる必要があります。</p> <p>方法については、<a href="#">38 ページのセクション 4.2 「デバイスのインポート」</a>を参照してください。</p>

タスク	詳細
 ZENworks Adaptive Agent のインストール	<p>ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールするにはさまざまな方法があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ZENworks コントロールセンターを使用してエージェントを ZENworks サーバからデバイスに展開します。</li> <li>◆ デバイス側では、Web ブラウザを使用して ZENworks サーバからエージェントをダウンロードし、インストールします。</li> <li>◆ エージェントをイメージに含め、イメージをデバイスに適用します。</li> </ul> <p>方法については、<a href="#">39 ページのセクション 4.3 「ZENworks Adaptive Agent のインストール」</a> を参照してください。</p>

## 1.3 Asset Management




表 1-3 Asset Management

タスク	詳細
 デバイスのスキャンによるソフトウェアおよびハードウェアインベントリの収集	<p>デバイスをスキャンしてデバイスのソフトウェアおよびハードウェアインベントリを収集します。インベントリ情報はソフトウェア配布およびハードウェアアップグレードに関する決定の手助けとなります。</p> <p>方法については、<a href="#">47 ページのセクション 5.1 「ソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集」</a> を参照してください。</p>
 ソフトウェア使用の監視	<p>使用しているソフトウェア製品の数量や頻度を分析するレポートを生成します。</p> <p>方法については、<a href="#">50 ページのセクション 5.2 「ソフトウェア使用状況の監視」</a> を参照してください。</p>
 ソフトウェアのライセンスコンプライアンスの監視	<p>インストールされたソフトウェア製品が正しくライセンスされているのか、アンダーライセンスなのか、オーバーライセンスなのかを確認します。</p> <p>方法については、<a href="#">51 ページのセクション 5.3 「ライセンスコンプライアンスの監視」</a> を参照してください。</p>

## 1.4 システムメッセージおよびレポート

ゾーン内で管理タスクを実行すると、情報が記録されてゾーンの状態とそこで行われているアクティビティを参照できるようになります。

表 1-4 システムメッセージおよびレポートタスク

タスク	詳細
 システムメッセージを参照します。	ZENworks システムは、情報、警告およびエラーメッセージを生成して、ソフトウェアの配布やポリシーの適用などのアクティビティを監視する手助けとなります。  方法については、61 ページのセクション 7.1 「システムメッセージの参照」を参照してください。
 ウォッチリストの作成	アクティビティを詳しく監視したいデバイス  方法については、64 ページのセクション 7.2 「ウォッチリストの作成」を参照してください。
 レポートの生成	デバイスなどのレポートを生成します。  方法については、65 ページのセクション 7.3 「レポートの生成」を参照してください。

# 管理ツールクックビュー

# 2

Novell® ZENworks® 10 Asset Management には、ZENworks システムを管理するために Web ベースのコンソール (ZENworks コントロールセンター) とコマンドラインユーティリティ (zman) の両方が提供されています。次のセクションでは、管理ツールのアクセス方法および使用法について説明します。

- ◆ 13 ページのセクション 2.1 「ZENworks コントロールセンター」
- ◆ 15 ページのセクション 2.2 「zman コマンドラインユーティリティ」
- ◆ 16 ページのセクション 2.3 「zac コマンドラインユーティリティ」

## 2.1 ZENworks コントロールセンター

ZENworks コントロールセンターは、管理ゾーンのすべての ZENworks サーバにインストールされます。どの ZENworks サーバでも、すべての管理タスクを実行できます。

- ◆ 13 ページのセクション 2.1.1 「ZENworks コントロールセンターへのアクセス」
- ◆ 14 ページのセクション 2.1.2 「ZENworks コントロールセンターの操作」

### 2.1.1 ZENworks コントロールセンターへのアクセス

- 1 『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「管理ブラウザ要件」に記載されている要件を満たす Web ブラウザを使用して、次の URL を入力します。

`https://ZENworks_Server_Address:port`

`ZENworks_Server_Address` は、ZENworks サーバの IP アドレスまたは DNS 名に置き換えてください。デフォルトポート (80 または 443) のいずれれも使用していない場合は、ポートを指定するだけです。ZENworks コントロールセンターには HTTPS 接続が必要です。HTTP 要求は、HTTPS にリダイレクトされます。

[ログイン] ダイアログボックスが表示されます。

Novell® ZENworks® ログイン		ヘルプ
管理ゾーン:	DOC_20070601B	
ユーザ名:	<input type="text"/>	
パスワード:	<input type="password"/>	
使用言語:	日本語	▼
<input type="button" value="ログイン"/>		
		N

- 2 [ユーザ名] フィールドに「Administrator」と入力します。

- 3 [パスワード] フィールドには、インストール時に作成した管理者パスワードを入力します。

認可されていないユーザが ZENworks コントロールセンターにアクセスできないようにするために、ログインの試行で 3 回失敗した場合、管理者アカウントが無効化されます。また、ログインを再度試行するまでに、60 秒のタイムアウトが実施されます。これらのデフォルト値を変更する場合は、『ZENworks 10 Management システム管理リファレンス』の「デフォルトのログインを無効にする値の変更」を参照してください。

- 4 [ログイン] をクリックして ZENworks コントロールセンターを表示します。

別の管理者としてログインする場合は、『ZENworks 10 Management システム管理リファレンス』の「ZENworks コントロールセンターへのアクセス」を参照してください。

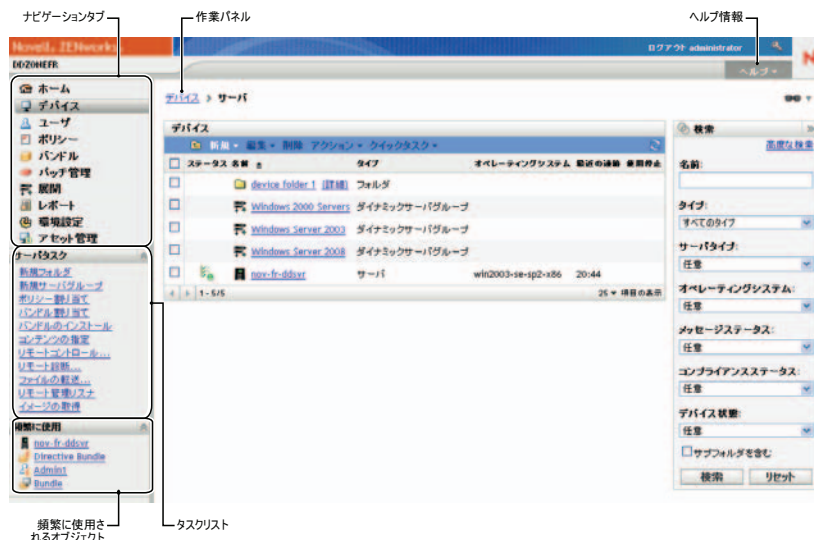
---

注：他の Novell 製品に対して管理ツールとして Novell iManager を使用している場合、iManager 経由で ZENworks コントロールセンターを使用できるように設定できます。詳細については、『Novell iManager を使用した ZENworks コントロールセンターへのアクセス』の「ZENworks 10 Management システム管理リファレンス」を参照してください。

---

## 2.1.2 ZENworks コントロールセンターの操作

次の [サーバ] ページは、ZENworks コントロールセンターの標準的な画面を示しています。



**ナビゲーションタブ：**左側のウィンドウのタブを使用すると、ZENworks の機能領域を移動できます。たとえば、上記の [サーバ] ページでは、サーバに関連付けられたタスクを管理できます。

**タスクリスト：**左側のウィンドウのタスクリストからは、現在のページで最も頻繁に実行するタスクにすばやくアクセスできます。タスクリストはページごとに異なります。

**頻繁に使用されるオブジェクト：**左側のウィンドウの [頻繁に使用] リストには、最も使用頻度の高い順から低い順に、アクセスした上位 10 のオブジェクトが表示されます。オブジェクトをクリックすると、直接そのオブジェクトの詳細ページに移動します。

**作業パネル:** 作業パネルでは、ZENworks システムの管理および監視を行います。パネルは、現在のページによって異なります。上の例では、[デバイス] と [検索] という2つの作業パネルがあります。[デバイス] パネルには、サーバ、フォルダ、サーバグループ、作成されたダイナミックサーバグループのリストが表示されます。このパネルはサーバの管理に使用します。[検索] パネルでは、サーバ名、オペレーティングシステム、ステータスなどの条件に従って [デバイス] パネルをフィルタリングできます。

**ヘルプ情報:** [ヘルプ] ボタンは、現在のページに関する情報が提供されているヘルプトピックにリンクされています。[ヘルプ] ボタンのリンクは、現在のページによって異なります。

## 2.2 zman コマンドラインユーティリティ

zman ユーティリティには、ZENworks コントロールセンター大半は実行できません。

zman ユーティリティの主要な目的は、スクリプトによって操作を実行できるようにすることです。ただし、コマンドラインから手動で操作を実行することもできます。

- ◆ 15 ページのセクション 2.2.1 「ディレクトリ」
- ◆ 15 ページのセクション 2.2.2 「構文」
- ◆ 15 ページのセクション 2.2.3 「コマンドのヘルプ」

### 2.2.1 ディレクトリ

このユーティリティは、次の場所のすべての ZENworks サーバにインストールされます。

```
%ZENWORKS_HOME%\bin
```

%ZENWORKS\_HOME% は、ZENworks のインストールパスを示します。Windows では、デフォルトパスは c:\novell\zenworks\bin です。Linux\* では、デフォルトパスは opt/novell/zenworks/bin です。

### 2.2.2 構文

zman ユーティリティの基本的な構文は次のとおりです。

```
zman category-action [options]
```

たとえば、デバイスのインベントリスキャンを開始するには、次のコマンドを使用します。

```
zman inventory-scan-now device/servers/server1
```

ここで、inventory-scan-now は category-action となり、device/servers/server1 はスキャン対象のデバイスのフォルダパスを指定するオプションです。

### 2.2.3 コマンドのヘルプ

コマンドを理解するには、オンラインヘルプを使用するか、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zman(1)」を参照するのが最も効果的です。

オンラインヘルプを使用するには、次の手順に従います。

**1 ZENworks サーバのコマンドプロンプトで「zman --help」と入力します。**

このコマンドでは、基本的な使用法 ( 構文 ) および使用可能なコマンドカテゴリのリストが表示されます。または次のように入力してヘルプを使用することもできます。

コマンド	説明
zman --help   more	カテゴリ別にすべてのコマンドが一覧表示されます。
zman category --help   more	カテゴリ内のすべてのコマンドが一覧表示されます。
zman command --help   more	コマンドのヘルプが表示されます。

## 2.3 zac コマンドラインユーティリティ

zac ユーティリティには、ZENworks Adaptive Agent で使用できるタスクを実行できるコマンドライン管理インタフェースが提供されています。

- ◆ 16 ページのセクション 2.3.1 「ディレクトリ」
- ◆ 16 ページのセクション 2.3.2 「構文」
- ◆ 16 ページのセクション 2.3.3 「コマンドのヘルプ」

### 2.3.1 ディレクトリ

このユーティリティは、次の場所のすべての Windows 管理対象デバイスにインストールされます。

```
%ZENWORKS_HOME%\bin
```

%ZENWORKS\_HOME% は、ZENworks のインストールパスを示します。デフォルトパスは、c:\novell\zenworks\bin です。

### 2.3.2 構文

zac ユーティリティでは、次の基本的な構文を使用しています。

```
zac コマンドオプション
```

たとえば、インベントリスキャンをデバイスで開始するには、次のコマンドを使用します。

```
zac inv scannow
```

ここで、inv がコマンドとなり、コマンドオプションは scannow です。

### 2.3.3 コマンドのヘルプ

コマンドを理解するには、オンラインヘルプを使用するか、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zac(1)」を参照するのが最も効果的です。

オンラインヘルプを使用するには、次の手順に従います。

- 1 管理対象デバイスのコマンドプロンプトで、次のコマンドのいずれかを入力します。

コマンド	説明
<code>zac --help</code>	コマンドの一覧が表示されます。
<code>zac command --help</code>	コマンドの詳細なヘルプが表示されます。



# ゾーン設定

Novell® ZENworks® 10 Asset Management の目的は、多数のデバイスやユーザをできる限り少ない作業で効率的な管理を行えるようにすることです。この管理作業の最初のステップは、ZENworks の機能のすべての利点を利用できるように管理ゾーンを確実に設定することです。

次のセクションでは、実行する継続的な管理タスクを最大限にサポートする管理ゾーンをセットアップするために理解しておく必要がある基本概念について説明します。それぞれの項目は管理概念を説明し、概念に関連するタスクを実行するための一般的なステップを提供します。

- ◆ 19 ページのセクション 3.1 「デバイスの構成：フォルダとグループ」
- ◆ 24 ページのセクション 3.2 「デバイスを登録する」
- ◆ 28 ページのセクション 3.3 「ユーザソースへの接続」
- ◆ 30 ページのセクション 3.4 「ZENworks 管理者アカウントの作成」
- ◆ 32 ページのセクション 3.5 「環境設定の変更」

## 3.1 デバイスの構成：フォルダとグループ

ZENworks コントロールセンターを使用して、個々のデバイスオブジェクトで直接タスクを実行してデバイスを管理できます。ただし、この方法は管理するデバイスが少ない場合にのみ効率的です。多数のデバイスの管理を最適化するため、ZENworks ではデバイスをフォルダおよびグループに分類し、フォルダまたはグループごとにタスクを実行してデバイスを管理できます。

フォルダおよびグループは、いつでも作成できます。ただし、最もよい方法はフォルダおよびグループを作成し、デバイスをゾーンに登録することです。これによって、登録キーおよびルールを使用して、デバイスの登録時に自動的にデバイスを適切なフォルダおよびグループに追加することができます (24 ページの「デバイスを登録する」を参照)。

- ◆ 19 ページのセクション 3.1.1 「フォルダ」
- ◆ 21 ページのセクション 3.1.2 「グループ」

### 3.1.1 フォルダ

フォルダは、デバイスを整理してデバイスの管理を簡素化するための優れたツールです。すべてのフォルダ上で、環境設定、タスクの実行を行えます。この場合、フォルダのデバイスはその設定タスクを継承します。

最適の結果を得るには、類似の環境設定要件のデバイスを同じフォルダに配置することです。

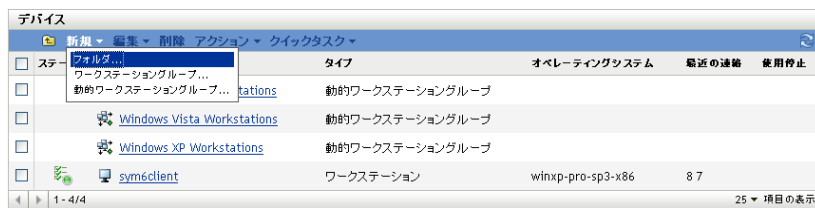
たとえば、3つの異なるサイトにワークステーションがあるとします。3つのサイトのワークステーションに対して異なる構成の設定を適用するとします。したがって、次の3つのフォルダ (/ワークステーション/Site、/ワークステーション/Site2、および/ワークステーション/Site3) を作成し、各フォルダに該当するワークステーションを配置します。すべてのワークステーションに対してほとんど同じ構成の設定を適用するため、これらの設定は管

理ゾーンで行います。ただし、サイト1とサイト2ではソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集を毎週実行し、サイト3では月に1回だけ収集を実行します。管理ゾーンでインベントリの収集を毎週に設定し、サイト3のフォルダを上書きして毎月を適用します。サイト1とサイト2ではインベントリを週次で収集し、サイト3ではインベントリを月次で収集します。

## フォルダの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [ワークステーション] フォルダをクリックします。

デバイス > ワークステーション



- 3 [新規] > [フォルダ] の順にクリックし、[新規フォルダ] ダイアログボックスを表示します。

**新規フォルダ** [?] [X]

名前: \*

フォルダ: \*  
 🔍

説明:

\* アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

- 4 [名前] フィールドに新しいフォルダの名前を入力します。  
ZENworks コントロールセンターの中でオブジェクト(フォルダ、グループ、など)に名前を付ける場合は、名前が次の規則に従うようにしてください:
  - ◆ 名前はフォルダ内で一意である必要があります。

- ◆ ZENworks データベースに使用されているデータベースソフトウェアによっては、同じ名前に対して大文字および小文字が区別されない場合があります。  
ZENworks Asset Management に含まれる組み込みデータベースは大文字と小文字を区別しないため、「Folder 1」と「FOLDER 1」は同じ名前とみなされ、同じフォルダ内で使用することはできません。大文字と小文字を区別する外部データベースを使用している場合、Folder 1 と FOLDER 1 は別個となります。
- ◆ 空白を使用する場合、コマンドラインに名前を入力するには、引用符で囲む必要があります。たとえば、zman ユーティリティで「Folder 1」と入力するには、引用符で囲む必要があります (“Folder 1”)。
- ◆ 次の文字は無効なので使用できません。 \ \* ? : " ' < > | ` % ~

5 [OK] をクリックしてフォルダを作成します。

また、zman ユーティリティで workstation-folder-create および server-folder-create コマンドを使用してデバイスフォルダを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「ワークステーションコマンド」および「サーバコマンド」を参照してください。

### 3.1.2 グループ

フォルダと同様、デバイスグループにタスクを実行することもできます。フォルダとは異なり、環境設定をグループに適用することはできません。

グループにより、タスクに層が追加され、柔軟性が増します。一部のケースで、フォルダにあるすべてのデバイスに同じコンテンツを同じタスクを実行したくない場合があります。

ZENworks ではグループと動的グループの両方が提供されています。タスクの実行の観点から見ると、グループおよびダイナミックグループ機能はまったく同じです。2つのタイプのグループの唯一の違いは、グループにデバイスを追加する方法です。グループの場合は、手動でデバイスを追加する必要があります。動的グループでは、グループのメンバに合致するデバイスの条件を定義しておき、デバイスがその条件に一致すると自動的に追加されます。

ZENworks には、いくつかの事前定義された動的サーバグループ (Windows 2000 Servers および Windows 2003 Servers) と動的ワークステーショングループ (Windows XP Workstation、Windows 2000 Workstation、および Windows Vista Workstations) が含まれています。これらのオペレーティングシステムを持つデバイスはすべて、自動的に該当する動的グループに追加されます。

#### グループの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 サーバ用のグループを作成する場合は、[サーバ] フォルダをクリックします。  
または  
ワークステーション用のグループを作成する場合は、[ワークステーション] フォルダをクリックします。

デバイス > ワークステーション



- 3 [新規] > [サーバグループ] (またはワークステーションの場合は [新規] > [ワークステーショングループ]) の順にクリックして新しいグループの作成ウィザードを起動します。

デバイス > ワークステーション > 新しいグループの作成

新しいグループの作成

ステップ 1: 基本情報

グループ名: \*

フォルダ: \*

説明:

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

---

- 4 [基本情報] ページで、[グループ名] フィールドに新規グループの名前を入力し、[次へ] をクリックします。  
グループ名は**命名規則**に準拠している必要があります。
- 5 [サマリ] ページで [完了] をクリックし、メンバを追加しないでグループを作成します。  
または  
グループにメンバーを追加する場合は [次へ] をクリックしてから**ステップ 6**に進みます。
- 6 [グループメンバの追加] ページで、[追加] をクリックしてグループにデバイスを追加し、デバイスの追加が完了したら [次へ] をクリックします。
- 7 [サマリ] ページで [完了] をクリックしてグループを作成します。

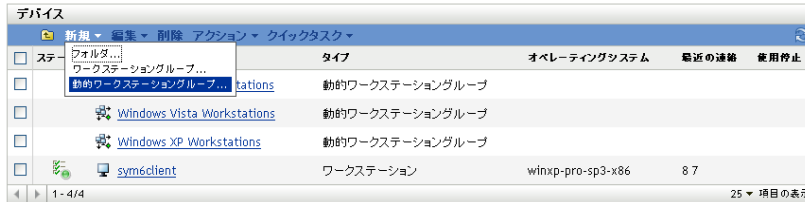
また、zman ユーティリティで workstation-group-create および server-group-create コマンドを使用してデバイスグループを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「ワークステーションコマンド」および「サーバコマンド」を参照してください。

## 動的グループの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。

- サーバ用のグループを作成する場合は、[サーバ] フォルダをクリックします。  
または  
ワークステーション用のグループを作成する場合は、[ワークステーション] フォルダをクリックします。

デバイス > ワークステーション



- [新規作成] > [ダイナミックサーバグループ] (またはワークステーション用の場合は [新規作成] > [ダイナミックワークステーショングループ]) の順にクリックして、新しいグループの作成ウィザードを起動します。

デバイス > ワークステーション > 新しいダイナミックグループの作成

**新しいダイナミックグループの作成**

ステップ 1: 基本情報

グループ名: \*

フォルダ: \*

説明:

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

---

- [基本情報] ページで、[グループ名] フィールドに新規グループの名前を入力し、[次へ] をクリックします。  
グループ名は**命名規則**に準拠している必要があります。
- [グループメンバー用のフィルタの定義] ページで、デバイスがグループのメンバーになるために満たす必要がある条件を定義して、[次へ] をクリックします。  
[ヘルプ] ボタンをクリックすると、条件の作成の詳細が表示されます。
- [サマリ] ページで、[完了] をクリックしてグループを作成します。

## 3.2 デバイスを登録する

ZENworks Adaptive Agent をデバイスを展開するとき、デバイスは管理ゾーンに登録され、管理対象デバイスとなります。登録の一貫として、デバイスの ZENworks 名およびデバイスを追加するフォルダまたはグループを指定できます。

デフォルトでは、デバイスのホスト名として ZENworks の名前が使用され、/Servers または /Workstations フォルダに追加され、他のグループのメンバにはなりません。手動でデバイスを別のフォルダに移動してグループに追加できますが、デバイスの数が多い場合や新規デバイスを連続して登録する場合には、面倒な仕事である場合もあります。大量のデバイスを管理する最もよい方法は、登録時にデバイスを自動で正しいフォルダおよびグループに追加することです。

登録時にデバイスをフォルダおよびグループに追加するには、登録キーまたは登録ルール、あるいはその両方を使用できます。登録キーまたは登録ルールの両方とも、フォルダおよびグループメンバをデバイスに割り当てることができます。ただし、登録にどちらか1つまたは両方を使用するかどうかを選択する前に、キーとルールには違いがあることに留意してください。

- ◆ 24 ページのセクション 3.2.1 「登録キー」
- ◆ 25 ページのセクション 3.2.2 「登録ルール」
- ◆ 27 ページのセクション 3.2.3 「デバイス命名テンプレート」
- ◆ 28 ページのセクション 3.2.4 「その他の情報の参照場所」

### 3.2.1 登録キー

登録キーは、手動で定義またはランダムに生成された英数字の文字列です。デバイスに ZENworks Adaptive Agent を展開するとき、登録キーが必要となります。最初にデバイスを ZENworks Server に接続するとき、デバイスはキー内に定義されているフォルダまたはグループに追加されます。

1つまたは複数の登録キーを作成して、デバイスが希望のフォルダおよびグループ内にあるようにすることができます。たとえば、すべての販売部のワークステーションが /Workstations/Sales フォルダに追加されているが、チーム割り当てによって、これが3つのグループ (SalesTeam1, SalesTeam2, SalesTeam3) に分かれるようにすることができます。3つの登録キーを作成して、各キーを設定し、販売部のワークステーションを /Workstations/Sales フォルダと適切なチームグループに追加することもできます。各ワークステーションが正しい登録キーを使用している限りは、これは適切なフォルダおよびグループに追加されます。

登録キーを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックし、次に [登録] タブをクリックします。



- 2 [登録キー] パネルで、[新規作成] > [登録キー] の順にクリックして、新規登録キーの作成ウィザードを起動します。

**新規登録キーの作成**

ステップ 1: 基本情報

新しい登録キーの名前、説明、および制限を入力します。[生成] ボタンをクリックすると、一意の名前が生成されます。

キーコード: \*

フォルダ: \*

説明:

このキーを使用できる回数:

無制限

制限:

\* アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

<< 戻る    次 >>    キャンセル

- 3 プロンプトに従って、キーを作成します。

ウィザードの各ステップで何を指定するかの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

zman ユーティリティで `registration-create-key` コマンドを使用して登録キーを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「登録コマンド」を参照してください。

### 3.2.2 登録ルール

展開中に登録キーを入力しない場合、またはデバイスを自動的に前もって定義された条件 (オペレーティングシステムタイプ、CPU、または IP アドレスなど) に基づいて別のフォルダおよびグループに追加しない場合は、登録ルールを使用できます。

ZENworks には、サーバとワークステーションについてそれぞれ別のデフォルト登録ルールがあります。キーを使わずにデバイスを登録し、登録ルールが作成されていない場合、デフォルトの登録ルールが適用されて、フォルダの割り当てが決まります。2つのデフォルトルールによって、すべてのサーバは /Servers フォルダに追加され、すべてのワークステーションは /Workstations フォルダに追加されます。

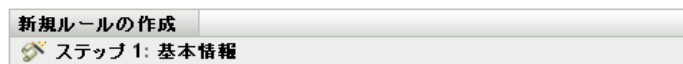
2つのデフォルトルールは、サーバまたはワークステーションの登録が失敗しないように指定されています。したがって、これら2つのデフォルトルールを削除したり変更したりすることはできません。ただし、デバイスの登録時にデバイスをフィルタして異なるフォルダやグループに追加できるようにする追加のルールを定義できます。**19 ページのセクション 3.1 「デバイスの構成：フォルダとグループ」** で推奨されているように、類似した環境設定を持つデバイスタスクを自動的に継承します。

登録ルールを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックし、次に [登録] タブをクリックします。



- 2 [登録ルール] パネルで、[新規作成] をクリックして新規登録ルールの作成ウィザードを起動します。



新規ルールの名前と説明を入力します。

名前: \*

説明:



### 3 プロンプトに従って、ルールを作成します。

ウィザードの各ステップで何を指定するかの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

zman ユーティリティで `ruleset-create` コマンドを使用して登録ルールを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「ルールセットコマンド」を参照してください。

## 3.2.3 デバイス命名テンプレート


デバイス命名テンプレートに従って、登録時にデバイスの名前が付けられます。デフォルトでは、デバイスのホスト名が使用されます。次のマシン変数、`${HostName}`、`${GUID}`、`${OS}`、`${CPU}`、`${DNS}`、`${IPAddress}` を組み合わせて自由に名前を変更できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックします。

環境設定	登録	システム情報	アセットインベントリ	アセット管理	システム更新
管理ゾーンの設定					⌵
コンテンツ					⌵
デバイス管理					⌵
カテゴリ					
ローカルデバイスのログ					
デバイスの更新スケジュール					
ZENworks エージェント					
登録					
ZENworks Explorer 設定					
システム変数					
起動前サービス					
プライマリユーザ					
プライマリワークステーション					
ダイナミックグループの更新スケジュール					
Wake-on-LAN					
リモート管理					
ディスカバリと展開					⌵
イベントとメッセージング					⌵
インフラ管理					⌵
インベントリ					⌵
レポートングサービス					⌵
アセット管理					⌵
バッチ管理					⌵

- 3 [登録] をクリックして [登録] ページを表示します。



- 4 [デバイス命名テンプレート] パネルで、 をクリックして、リストから目的のマシン変数を選択します。

1 つまたは複数の変数の組み合わせで使用できます (例 :  
 \$\{HostName\}\$\{GUID\} など)。

- 5 [OK] をクリックし、変更を保存します。

### 3.2.4 その他の情報の参照場所

デバイスの登録の詳細については、『ZENworks 10 検出、展開、リタイアリファレンス』を参照してください。

## 3.3 ユーザソースへの接続

ZENworks の信頼されたユーザソースを提供する 1 つまたは複数の LDAP ディレクトリに接続できます。ユーザソースを追加すると、ZENworks 管理者アカウントと LDAP ユーザアカウントを関連付け、デバイスと、デバイスを主に使用するユーザを関連付け、ユーザを組み込むアセットインベントリと管理レポートを実行することができます。

LDAP ディレクトリに影響はありません。ZENworks で必要なのは LDAP ディレクトリへの読み込みアクセスのみで、に保存されます。ユーザソースに接続する際に必要となる特定の読み取り権の詳細については、『ZENworks 10 Management システム管理リファレンス』を参照してください。

ユーザソースとして Novell eDirectory™ および Microsoft\* Active Directory\* に接続できます。最小要件は、Windows 2000 SP4 にインストールされた Novell eDirectory 8.7.3 および Microsoft Active Directory です。LDAP の最小要件はバージョン 3 です。

LDAP ディレクトリに接続した後、ユーザ名を表示するディレクトリ内にコンテナを定義します。たとえば、MyCompany という名前の Microsoft Active Directory ドメインツリーを使用しているとします。すべてのユーザは、MyCompany ツリーの MyCompany/Users および MyCompany/Temp/Users という 2 つのコンテナに属しています。MyCompany ツリーを

ソースとして、MyCompany/Users および MyCompany/Temp/Users を別々のユーザコンテナとして参照できます。こうすることで、ディレクトリ内部でのアクセスをユーザを含むコンテナのみに制限できます。

追加したコンテナに属するユーザに加えて、ZENworks コントロールセンターではコンテナ内に含まれるユーザグループも表示されます。これで、個々のユーザとユーザグループの両方の管理を行えるようになります。

ユーザソースに接続するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。



- 2 [ユーザソース] パネルで、[新規] をクリックして、新規ユーザソースの作成ウィザードを起動します。

[ユーザ](#) > 新規ユーザソースの作成

- 3 プロンプトに従ってユーザソースを作成します。

ウィザードの各ステップで何を指定するかの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

zman ユーティリティで user-source-create コマンドを使用してユーザソースへの接続を作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management コマンドライン ユーティリティリファレンス』の「ユーザコマンド」を参照してください。

## 3.4 ZENworks 管理者アカウントの作成

インストール中に、デフォルトの ZENworks 管理者アカウント (Administrator) が作成されます。このアカウントはスーパー管理者アカウントと呼ばれ、管理ゾーンに対するフル管理権を提供します。

通常、管理タスクを実行する各ユーザに対して管理者アカウントを作成します。これらのアカウントをスーパー管理者アカウントとして定義するか、または制限された権限を持つ管理者アカウントとして定義できます。たとえば、管理ゾーン内のデバイスの検出と登録のみを許可する管理者アカウントをユーザに付与できます。または、契約、ライセンス、文書管理などのアセット管理タスクの実行にアカウントを制限することができます。

場合によっては、複数の管理者アカウントに同じ管理権が必要になることがあります。各アカウントに個別に権限を割り当てるのではなく、管理者の役割を作成して、役割に管理権を割り当て、アカウントを役割に追加できます。たとえば、数人の管理者が必要とする管理権を提供するヘルプデスク役割を作成します。

追加管理者アカウントを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。



- 2 [管理者] パネルで、[新規] をクリックして [新しい管理者の追加] ダイアログボックスを表示します。

新しい管理者の追加

管理者を作成する方法は2つあります：

名前およびパスワードを指定して新しい管理者を作成します。

管理者名：

フルネーム：

パスワード：

パスワードを再入力してください：

ユーザソース内のユーザを基準にする  
信頼されたソースで定義された同じアカウント情報を使用します。

追加 削除	
<input type="checkbox"/>	名前 フォルダ内

項目を選択していません、[追加]をクリックして項目を選択します。

自分の持っているのと同じ権限をこの管理者に付与します。  
アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

3 次のフィールドに情報を入力します。

[新しい管理者の追加] ダイアログボックスでは、名前またはパスワードを提供して新しい管理者アカウントを作成できます。またはユーザソースの既存のユーザに基づいて新しい管理者を作成できます。オプションで、ログインしている管理者と同じ権限を新しい管理者に付与できます。

**名前とパスワードを提供して新しい管理者を作成する：**このオプションは、手動で名前およびパスワードを指定して新しい管理者アカウントを作成する場合にのみ選択してください。

**ユーザソースのユーザに基づく：**このオプションは、ユーザソースからのユーザ情報に基づいて新しい管理者アカウントを作成する場合に選択してください。これを行うには、[追加] をクリックして、目的のユーザを参照して選択します。

**自分の持っているのと同じ権限をこの管理者に付与します：**このオプションは、新しい管理者に、現在ログインしている管理者と同じ権利を割り当てます。

4 フィールドに入力が完了したら [OK] をクリックして新しい管理者を [管理者] パネルに追加します。

5 新規の管理者の権限または役割を変更する必要がある場合は、管理者アカウントをクリックしてアカウントの詳細を表示します。

全般			
管理者のフルネーム:	<input type="text" value="FirstAdmin"/>		
<input checked="" type="checkbox"/> スーパー管理者			
<small>メモ: [スーパー管理者] チェックボックスがオンになっている場合は、この管理者はすべての権限があるスーパー管理者です。これにより、(許可される、拒否される、または設定されない) 割り当て済みのすべての権限が上書きされます。</small>			
割り当てられた権利			
追加 編集 削除			
<input type="checkbox"/> タイプ	コンテキスト	許可	拒否
<small>使用できる項目がありません。 メモ: 各管理者には表示権限が与えられ、それらは削除できません。</small>			
割り当て済みの役割			
追加 編集 削除			
<input type="checkbox"/> 役割	タイプ	コンテキスト	
<small>使用できる項目がありません。</small>			
適用		リセット	

- 6 [割り当てられた権限] パネルを使用して割り当てられている権限を変更します。  
このページで使用できるオプションの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックするか、『ZENworks 10 Management システム管理リファレンス』の「管理者権限の管理」を参照してください。
- 7 権限の変更が完了したら、[適用] をクリックして変更内容を保存します。

ZENworks 管理者アカウントまたは管理者役割の作成の詳細については、『管理者』の「ZENworks 10 Management システム管理リファレンス」を参照してください。

z man ユーティリティで admin-create コマンドを使用して ZENworks 管理者アカウントを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management コマンドライン ユーティリティリファレンス』の「管理者コマンド」を参照してください。

## 3.5 環境設定の変更

管理ゾーン的环境設定では、ゾーンでの様々な機能の動作を制御できます。デバイス管理設定では、デバイスが更新された情報を確認するために ZENworks サーバにアクセスする頻度、動的グループの更新頻度、およびどのレベルのメッセージ(情報、警告、またはエラー)を ZENworks Adaptive Agent で記録するかを制御することができます。イベントおよびメッセージの設定、ディスカバリおよび展開の設定、その他さまざまな設定があります。

デバイスに適用する管理ゾーンの設定は、ゾーン内のすべてのデバイスに継承されます。19 ページのセクション 3.1 「デバイスの構成: フォルダとグループ」で説明したように、ゾーン設定をデバイスフォルダまたは個別のデバイス上で設定することによって上書きすることができます。これにより、必要に応じて最大のデバイスに適用するゾーン設定を確立して、フォルダおよびデバイス状の設定を上書きすることができます。

デフォルトでは、ゾーンの設定は一般的な機能を提供する値を使用して事前に設定されています。ただし、使用している環境で必要な動作に適応するように設定を変更することができます。

- ◆ 33 ページのセクション 3.5.1 「ゾーンでの環境設定の変更」
- ◆ 33 ページのセクション 3.5.2 「フォルダの環境設定の変更」
- ◆ 34 ページのセクション 3.5.3 「デバイスでの環境設定の変更」

### 3.5.1 ゾーンでの環境設定の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、変更する設定の設定カテゴリ ( [デバイス管理]、[ディスクバリと展開]、[イベントとメッセージング] など) をクリックします。

環境設定	登録	システム情報	アセットインベントリ	アセット管理	システム更新
管理ゾーンの設定					
コンテンツ					
デバイス管理					
カテゴリ					
ローカルデバイスのログ					
デバイスの更新スケジュール					
ZENworksエージェント					
登録					
ZENworks Explorer設定					
システム変数					
起動前サービス					
プライマリユーザ					
プライマリワークステーション					
ダイナミックグループの更新スケジュール					
Wake-on-LAN					
リモート管理					
ディスクバリと展開					
イベントとメッセージング					
インフラ管理					
インベントリ					
レポートサービス					
アセット管理					
バッチ管理					

- 3 設定をクリックして、詳細ページを表示します。
- 4 必要に応じて、設定を変更します。

設定に関する詳細については、『ZENworks 10 Management システム管理リファレンス』の「管理ゾーンの環境設定の変更」を参照するか、ZENworks コントロールセンターの [ヘルプ] ボタンをクリックします。
- 5 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用] ) をクリックして変更内容を保存します。

環境設定がデバイスに適用されると、設定がフォルダレベルまたはデバイスレベルで上書きされない限り、設定はゾーン内のすべてのデバイスに継承されます。

### 3.5.2 フォルダの環境設定の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [デバイス] パネル ( [管理対象] タブ) で、設定を変更するフォルダを参照します。
- 3 フォルダを見つけたら、フォルダ名の横にある [詳細] をクリックしてフォルダの詳細を表示します。
- 4 [設定] タブをクリックします。
- 5 [設定] パネルで、設定を変更するカテゴリ ( [デバイス管理]、[インフラストラクチャ管理] など) をクリックします。

## ワークステーション

ワークステーション		
概要	関係	設定
設定		
コンテンツ		▼
デバイス管理		⊕
カテゴリ	説明	から継承
<a href="#">ローカルデバイスのログ</a>	管理対象デバイスが遭遇した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。	(システム)
<a href="#">デバイスの更新スケジュール</a>	デバイスの更新間隔を設定します。	(システム)
<a href="#">ZENworksエージェント</a>	ZENworksエージェントを設定します。	(システム)
<a href="#">登録</a>	登録設定を構成します。	(システム)
<a href="#">ZENworks Explorer設定</a>	管理対象デバイス上でのZENworks Explorerの動作を設定します。	(システム)
<a href="#">システム変数</a>	システム変数を設定します。	---
<a href="#">起動前サービス</a>	プレブートサービスを設定します。	---
<a href="#">プライマリユーザ</a>	プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。	---
<a href="#">リモート管理</a>	リモート管理を有効にして設定します。	(システム)
<a href="#">デバイスの動的名前変更</a>	デバイスの自動名前変更を有効にします。	(システム)
インフラ管理		▼
インベントリ		▼
アセット管理		▼

6 設定をクリックして、詳細ページを表示します。

7 必要に応じて、設定を変更します。

設定に関する詳細については、『ZENworks 10 Management システム管理リファレンス』の「[管理ゾーンの環境設定の変更](#)」を参照するか、ZENworks コントロールセンターの [ヘルプ] ボタンをクリックします。

8 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用]) をクリックして変更内容を保存します。

環境設定は、設定がサブフォルダまたは個別のデバイス上で上書きされない限り、サブフォルダに含まれるすべてのデバイスを含めフォルダ内のすべてのデバイスによって継承されます。

### 3.5.3 デバイスでの環境設定の変更

1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。

2 [デバイス] パネル ([管理対象] タブ) で、設定を変更するデバイスを参照します。

3 デバイスを見つけたら、デバイス名をクリックしてフォルダの詳細を表示します。

4 [設定] タブをクリックします。

5 [設定] パネルで、設定を変更するカテゴリ ([ ], [デバイス管理]、[インフラストラクチャ管理] など) をクリックします。

zendocwks1

概要	インベントリ	関係	設定	コンテンツ	バッチ
設定					
コンテンツ					▼
デバイス管理					⌵
カテゴリ	説明	から継承			
<a href="#">ローカルデバイスのログ</a>	管理対象デバイスが遭遇した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。	(システム)			
<a href="#">デバイスの更新スケジュール</a>	デバイスの更新間隔を設定します。	(システム)			
<a href="#">ZENworksエージェント</a>	ZENworksエージェントを設定します。	(システム)			
<a href="#">ZENworks Explorer設定</a>	管理対象デバイス上でのZENworks Explorerの動作を設定します。	(システム)			
<a href="#">システム変数</a>	システム変数を設定します。	---			
<a href="#">起動前サービス</a>	ブレードサービスを設定します。	---			
<a href="#">プライマリユーザ</a>	プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。	---			
<a href="#">リモート管理</a>	リモート管理を有効にして設定します。	(システム)			
インフラ管理					▼
インベントリ					▼
アセット管理					▼

6 設定をクリックして、詳細ページを表示します。

7 必要に応じて、設定を変更します。

設定に関する詳細については、『ZENworks 10 Management システム管理リファレンス』の「[管理ゾーン的环境設定の変更](#)」を参照するか、ZENworks コントロールセンターの [ヘルプ] ボタンをクリックします。

8 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用]) をクリックして変更内容を保存します。



# ZENworks Adaptive Agent の展開

# 4

Novell® ZENworks® 10 Asset Management は、管理するデバイスに ZENworks Adaptive Agent を展開するために使用できるさまざまな方法を提供します。このセクションでは、最も一般的な 2 つの方法、Web インストールおよび ZENworks コントロールセンター展開タスクについて説明します。その他の方法の情報については、『ZENworks 10 検出、展開、リタイアリファレンス』を参照してください。

展開タスクを使用して Adaptive Agent をデバイスにインストールするよう計画している場合は、最初にネットワーク検出またはファイルインポートのいずれかを使用して目的のデバイスをユーザの管理ゾーンに追加する必要があります。次にリストされている最初の 2 つのセクションは、ネットワークディスカバリおよびファイルインポートの使用方を説明しています。残りのセクションでは、ZENworks Adaptive Agent のインストール手順について説明します。

- ◆ 37 ページのセクション 4.1 「ネットワークデバイスの検出」
- ◆ 38 ページのセクション 4.2 「デバイスのインポート」
- ◆ 39 ページのセクション 4.3 「ZENworks Adaptive Agent のインストール」

---

注：デバイスが ZENworks Adaptive Agent をインストールする要件を満たさない場合は（『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「管理対象デバイス要件」を参照）、インベントリのみモジュールをインストールして、デバイスのインベントリをサポートすることができます。詳細については、『ZENworks 10 検出、展開、リタイアリファレンス』を参照してください。

---

## 4.1 ネットワークデバイスの検出

ZENworks サーバで ZENworks Adaptive Agent を自動的にデバイスに展開する場合は、まず最初に管理ゾーンにデバイスを追加する必要があります。これを行うには、次の 2 つのオプションがあります：1) ZENworks 検出技術を使用してネットワーク上のデバイスを検出して ZENworks コントロールセンターに表示する。または 2) カンマ区切り値 (CSV) ファイルからインポートする。

このセクションでは検出技術の使用法について説明します。CSV ファイルからデバイスをインポートする方法の詳細については、38 ページのセクション 4.2 「デバイスのインポート」を参照してください。

実行できる検出には 2 つのタイプがあります。

- ◆ **IP 検出**：IP アドレス範囲を指定することができます。デフォルトでは、6 つのディスカバリテクノロジー (WMI、WinAPI、MAC Address、ZENworks、SNMP、SSH、NMAP) を使用します。それぞれの検出技術からは、検出済みデバイスに関するさまざまなレベルの情報 (OS バージョン、DNS 名など) が返されます。
- ◆ **LDAP 検出**：LDAP ディレクトリコンテキストを指定してすべてのデバイスタイプのオブジェクト (ワークステーション、サーバなど) を検索します。検出されるデバイスオブジェクトは、デバイスの OS バージョンおよび DNS 名を判別するために周知の属性 (dnsHostName、OperatingSystem、wmNameDNS、wmNameOS など) に対してクエリが行われます。

いずれかの検出を実行するには、検出タスクを作成する必要があります。検出タスクでは、検索するソース (IP アドレス範囲または LDAP ディレクトリ) の識別、検出されたデバイスからの情報の取得に必要な資格情報の指定、検出を開始する日時のスケジュール、および検出を実行する ZENworks サーバの選択を行うことができます。検出タスクの作成方法の詳細については、『ZENworks 10 検出、展開、リタイアリファレンス』を参照してください。

## 4.2 デバイスのインポート

ZENworks サーバで ZENworks Adaptive Agent を自動的にデバイスに展開する場合は、まず初めに管理ゾーン内でデバイスを識別する必要があります。これを行うには、2つのオプションがあります。1) カンマ区切り値 (CSV) ファイルからインポート、または 2) ZENworks 検出技術を使用してネットワーク上のデバイスを検索して ZENworks コントロールセンターに表示することができます。

このセクションでは、CSV ファイルからデバイスをインポートする方法を説明します。検出技術の使用の詳細については、37 ページのセクション 4.1 「ネットワークデバイスの検出」を参照してください。

CSV ファイルから情報をインポートする場合、CSV フィールドを ZENworks データベースフィールドにマップします。少なくとも、CSV ファイルには、各デバイスの DNS 名または IP アドレスが含まれている必要があります。

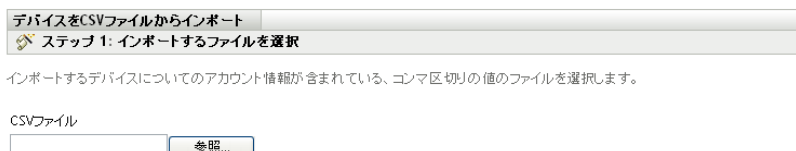
CSV ファイルからデバイスをインポートするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[展開] タブをクリックします。



- 2 左ナビゲーションパネルの [展開アクティビティ] リストで、[展開可能なデバイスのインポート] をクリックして、デバイスを CSV ファイルからインポートウィザードを起動します。

展開 > デバイスをCSVファイルからインポート



- 3 次の表からの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

[ウィザード] ページ	詳細
[インポートするファイルを選択] ページ	インポートするデバイスを含む CSV ファイルを参照して選択します。少なくとも、CSV ファイルには、各デバイスの DNS 名または IP アドレスが含まれている必要があります。
インポートを設定	<p>CSV ファイルのカラムを ZENworks データベースのデバイスフィールドにマップします。少なくとも、CSV ファイルの DSN 名または IP アドレスを ZENworks データベースの [DNS 名フィールド] または [IP アドレス] フィールドにマッピングする必要があります。</p> <p>情報マッピングを作成するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[追加] をクリックして、[インポートカラムの指定] ダイアログボックスを表示します。</li> <li>次のフィールドに入力します。  <b>フィールド:</b> CSV ファイルの列にマッピングするデバイスフィールドを選択します。  <b>列:</b> 選択フィールドにマッピングする列の番号を選択します。</li> <li>[OK] をクリックして、情報マッピングを作成して、リストに追加します。</li> <li>フィールドが正しい列にマッピングされているか確認するには、[サンプルの表示] をクリックします。</li> <li>上記の手順を繰り返して、追加の情報マッピングを作成および検証します。</li> </ol>

ウィザードが終了すると、[展開可能なデバイス] パネルのリストにデバイスが追加されます。

## 4.3 ZENworks Adaptive Agent のインストール

次のセクションでは、Web インストールまたは ZENworks コントロールセンター展開タスクを使用して ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールする手順について説明します。

- ◆ 39 ページのセクション 4.3.1 「手動インストール」
- ◆ 40 ページのセクション 4.3.2 「ZENworks コントロールセンター展開タスク」

### 4.3.1 手動インストール

- 1 デバイスが必要な要件を満たしていることを確認します (『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「管理対象デバイス要件」を参照してください)。
- 2 ターゲットデバイス上で、Web ブラウザで次のアドレスを開きます。  
<https://server/zenworks-setup>  
`server` は ZENworks サーバの DNS 名または IP アドレスです。



Web ブラウザに Adaptive Agent の展開パッケージの一覧が表示されます。各アーキテクチャ (32 ビットおよび 64 ビット) 用に、2 種類のパッケージがあります。

**ネットワーク：**ネットワークパッケージは、Preagent だけをダウンロードし、目的のデバイスにインストールします。続いて、Preagent が ZENworks サーバから ZENworks Adaptive Agent をダウンロードしてインストールします。

**スタンドアロン：**スタンドアロンパッケージでは、Preagent と Adaptive Agent を目的のデバイスにダウンロードし、続いて Preagent がローカルデバイスから Adaptive Agent をインストールします。スタンドアロンパッケージは、ZENworks Adaptive Agent を現在ネットワークから接続解除されているデバイスにインストールする必要がある場合に便利です。パッケージをリムーバブルメディア (CD、USB フラッシュドライブなど) に保存し、スタンドアロンデバイスでメディアからパッケージを実行することができます。Adaptive Agent はデバイスにインストールされますが、デバイスがネットワークに接続されるまで登録および管理は行われません。

- 3 使用する展開パッケージの名前をクリックし、パッケージをデバイスのローカルドライブに保存するか、ZENworks サーバから実行します。
- 4 パッケージをダウンロードしたら、デバイスでパッケージを起動します。

パッケージをコマンドラインから起動する際にパッケージで使用できるオプションの詳細については、『ZENworks 10 検出、展開、リタイアリファレンス』の「**手動でのエージェントの展開**」を参照してください。

- 5 インストールの完了時に、再起動するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。次のいずれかを行います。
  - ◆ 何もしない。この場合、5 分後に自動的に再起動します。
  - ◆ [キャンセル] をクリックする。後で再起動する必要があります。
  - ◆ [OK] をクリックすると、すぐに再起動します。

デバイスは再起動するとき、管理ゾーンに登録され、ZENworks アイコンが通知領域 (システムトレイ) に配置されます。

ZENworks コントロールセンターでは、デバイスは [デバイス] ページの \Servers フォルダ構造または \Workstation フォルダ構造の下層に表示されます。

### 4.3.2 ZENworks コントロールセンター展開タスク

展開タスクを使用して Adaptive Agent をインストールするには、目的のデバイスが ZENworks コントロールセンター内に表示されている必要があります。つまり、すでに [37 ページのセクション 4.1 「ネットワークデバイスの検出」](#) または [38 ページのセクション 4.2 「デバイスのインポート」](#) を完了していなければなりません。

展開タスクを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[展開] タブをクリックします。

[展開可能なデバイス] パネルには、Adaptive Agent を展開するすべてのデバイス (インポート済みまたは検出済み) が一覧表示されます。

名前	IPアドレス	オペレーティングシステム	検出日	展開ステータス
<input type="checkbox"/> 192.168.9.240	192.168.9.240	不明なOS	2008/08/05	エラー
<input type="checkbox"/> 192.168.9.241	192.168.9.241	不明なOS	2008/08/05	エラー
<input type="checkbox"/> rawhide.rawhide.sga	192.168.9.1	不明なOS	2008/08/05	エラー
<input type="checkbox"/> SYMCLIENT	192.168.9.242	不明なOS	2008/08/05	エラー

- 2 [展開タスク] パネルで、[新規] をクリックして、デバイスの展開ウィザードを起動します。

展開 > デバイスウィザードの展開

デバイスウィザードの展開

ステップ 1: 展開タスク名の入力

名前: \*

説明:


\* アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

- 3 次の表の情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

[ウィザード] ページ	詳細
[展開タスク名の入力] ページ	タスクの名前を指定します。名前には次の文字を使用することはできません。 \ \ * \ ? \ : \ " \ ' \ < \ > \   \ ` \ % \ ~
[デバイス] ページを選択します。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. [追加] をクリックして、[検出されたデバイスブラウザ] ダイアログボックスを表示します。 デフォルトビューには、管理ゾーンで検出されたすべてのデバイスが表示されます。</li> <li>2. デバイスを選択するには、➡ をクリックします。</li> <li>3. デバイスの選択が完了したら、[OK] をクリックして、[デバイスの選択] ページに戻ります。 選択したデバイスがリスト内に表示されます。</li> </ol>

[ウィザード] ページ	詳細
<p>[アカウント情報の入力] &gt; [データストアするアカウント情報を保存] フィールドに進みます。</p>	<p>[アカウント情報の入力] ページで、タスクに含まれているデバイスに Adaptive Agent を展開するときに必要なユーザ名およびパスワードを入力します。</p> <p>アカウント情報は、保存した場合を除きメモリにのみ格納されません。保存されたアカウント情報は、セキュリティを増すためにデータベース内で暗号化されます。</p> <p>保存されていないアカウント情報は、ZENworks サーバが再起動されるとメモリからクリアされます。スケジュール展開タスクを作成している場合、展開の実行時にアカウント情報が依然として有効であるように、アカウント情報を保存することができます。</p>
<p>[アカウント情報] ページの [アカウント情報] を入力します。</p>	<p>アカウント情報を追加するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [追加] をクリックして [アカウント情報を入力] ダイアログボックスを表示します。[ユーザ名] フィールドに、適切なユーザ名を指定します。</li> </ol> <p>Adaptive Agent を展開するには、ZENworks サーバが、デバイスの管理共有 (ADMIN\$) にドライブをマップできる必要があります。次のアカウント情報が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>デバイスがドメインのメンバである場合</b>：ドメインまたはローカル管理者グループアカウント情報を使用できます。ローカルアカウント情報を使用する場合、ドメインアカウント情報と区別するため、ユーザ名を workstation_name\username として指定する必要があります。</li> <li>◆ <b>デバイスがドメインのメンバでない場合</b>：ローカル管理者グループアカウント情報を使用する必要があります。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. [パスワード] および [パスワードの再入力] フィールドにユーザパスワードを入力します。</li> <li>3. [OK] をクリックしてアカウント情報を保存します。</li> </ol>
<p>[スケジュールの選択] ページ</p>	<p>環境によっては、アカウント情報が、Adaptive Agent を展開するすべてのデバイスへのアクセス権を提供しない場合もあります。この場合、タスクに含まれているデバイスをカバーするために必要なだけアカウント情報を追加する必要があります。ZENworks サーバは、有効な最初のアカウント情報を使用します。</p> <p>[スケジュールの選択] ページでは、タスクを作成してすぐに実行するかどうか ([今すぐ] オプション)、または後で実行するようにタスクのスケジュールを指定するかを選択できます。[スケジュール済み] を選択する場合は、次のいずれか 1 つのスケジュールを選択します。</p> <p><b>スケジュールなし</b>：スケジュールが設定されていないことを示します。タスクはスケジュールが設定されるか、手動で起動されるまで実行されません。これは、タスクを作成し、後でスケジュールを設定するか、手動でタスクを実行する場合に便利です。</p> <p><b>特定の日付</b>：タスクを実行する日付を 1 つまたは複数指定します。</p> <p><b>繰り返し</b>：タスクを実行する曜日、月の特定日、または固定の間隔を示します。</p> <p>スケジュールの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。</p>

[ウィザード] ページ	詳細
[プライマリサーバの選択] ページ > [プライマリサーバ] フィールド	展開タスクを実行する ZENworks サーバを選択します。
[Windows プロキシの選択] ページ > [Windows プライマリサーバの Windows プロキシを使用] フィールド	<p>このオプションは、Windows プライマリサーバの代わりに Windows プロキシを使用して展開タスクを実行する場合に選択します。</p> <p>Windows プロキシは次のものの代わりに使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Windows 固有のディカバリおよび展開タスクを実行できない Linux プライマリサーバ</li> <li>◆ Windows 固有のディカバリおよび展開タスクを実行できない Linux プライマリサーバ</li> </ul> <p>検出または展開するデバイスがプライマリサーバ以外のサブネットにある場合の Windows サーバ。</p>
<p><b>注：</b>このオプションは、[プライマリサーバの選択] ページで Windows プライマリサーバが選択されている場合のみ表示されません。</p>	
<p>展開については、Windows ファイアウォール構成設定で<b>ファイルとプリンタの共有</b>を例外として追加する必要があります。デフォルトでは、例外の範囲はローカルサブネットにのみ適用されます。ターゲットデバイスが、展開が実行されているプライマリサーバとは別のサブネットにある場合、プライマリサーバの IP アドレスを例外として追加する必要があります。ただし、Windows プロキシをターゲットデバイスと同じサブネットで使用している場合は、Windows ファイアウォール例外の範囲を変更する必要はありません。</p>	
[Windows プロキシの選択] ページ > [ゾーン Windows プロキシ設定を無効にします] フィールド	<p>管理ゾーンで設定した Windows プロキシ設定を無効にすることを選択します。</p> <p>タスクで設定を構成する場合は、設定を変更する前に [ゾーン Windows プロキシ設定を無効にしません] を選択する必要があります。</p>
<p>[Windows プロキシ設定] パネルでは、ゾーン内にある管理対象の Windows デバイスが ZENworks サーバの代わりに検出と展開タスクを実行するように指定できます。主に Linux 上で動作する ZENworks サーバで、WMI や WinAPI などの Windows 特有の検出技術を使用する検出タスク、および管理対象の Windows デバイスを使用する展開タスクを使用しなくて済むように、このような設計となっています。</p>	
<p>ZENworks サーバと Windows プロキシ間でやりとりされる検出のアカウント情報などの情報を保護するために、SSL を使用したセキュアな接続が採用されています。</p>	
<p><b>Windows プロキシ：</b>Linux ベースの ZENworks サーバの代わりに検出と展開タスクを実行させる管理対象の Windows デバイス (サーバまたはワークステーション) を選択します。</p>	
<p><b>Windows プロキシタイムアウト：</b>ZENworks サーバが Windows プロキシからの応答を待機する時間を秒数で指定します。指定されたタイムアウト期間後に受信した応答は破棄されます。</p>	

[ウィザード] ページ	詳細
[一般オプション] ページ > [展開パッケージ] フィールド	<p>管理対象デバイスのプロセッサアーキテクチャに応じて、ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールするために使用する展開パッケージを選択します。</p> <p>デバイスのプロセッサアーキテクチャがわからない場合は、ターゲットアーキテクチャが含まれるパッケージを [すべて] として選択すると、32 ビットプラットフォームにも 64 ビットプラットフォームにも適用されます。選択したパッケージがプライマリサーバから削除されている場合は、デフォルトの展開パッケージが展開されます。</p>
[一般オプション] ページ > [エージェントインストールフォルダの指定] フィールド	<p>ZENworks Adaptive Agent をインストールする管理対象デバイスのディレクトリを指定します。管理対象デバイスに変数が設定されていない場合、デフォルトでは、エージェントは %ZENWORKS_HOME% システム環境変数で指定したディレクトリまたは %ProgramFiles%\novell\zenworks ディレクトリにインストールされます。</p> <p>インストールパスにスペースが含まれていないことを確認してください。</p>
[一般オプション] ページ > 再起動オプション	<p>注：指定したディレクトリが作成されない場合、エージェントはデフォルトのロケーションにインストールされます。</p> <p>ZENworks Adaptive Agent のインストール後は、デバイスを再起動して Adaptive Agent が機能するようになる必要があります。次を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的の再起動オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>即時</b>：Adaptive Agent のインストール後ただちにデバイスを強制的に再起動するには、[即時] を選択します。</li> <li>◆ <b>手動</b>：ユーザが任意のタイミングで手動でデバイスを再起動できるようにするには、[手動] を選択します。</li> <li>◆ <b>スケジュール済</b>：指定した時間に再起動するには、[スケジュール済] を選択します。スケジュールのフィールドに入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>開始日</b>： をクリックして、イベントの日付選択に使用できるカレンダーを表示します。</li> <li>◆ <b>開始時刻</b>：イベントを開始する時刻を指定します。</li> <li>◆ <b>協定世界時 (UTC) を使用</b>：開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯いとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間帯は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2. (オプション) 再起動のプロンプトを表示しない場合は、[再起動のプロンプトを表示しない] オプションを選択します。</li> </ol>

[ウィザード] ページ	詳細
[登録キーの追加] ページ	<p>(オプション) 展開プロセスの登録部分の実行中に使用する登録キーを選択します。登録キーは、登録中にデバイスが割り当てられるフォルダおよびグループに関する情報を提供します。登録キーの選択はオプションです。選択しない場合、登録ルールは、フォルダおよびグループの割り当ての決定に使用されます。サーバまたはワークステーションに展開するには、それぞれサーバ登録キーまたはワークステーション登録キーを選択します。</p> <p>登録キーおよびルールの詳細については、<a href="#">24 ページのセクション 3.2「デバイスを登録する」</a>を参照してください。</p>
[展開前/後] ページ	<p>(オプション) Adaptive Agent がデバイスにインストールされる前後に実行するコマンドを指定します。たとえば、オペレーティングシステムコマンドを実行、スクリプトを実行、実行プログラム起動できます。</p> <p>コマンドは、展開タスクパッケージの一部としてプレエージェン트에渡されます。プレエージェン特では、システム領域でコマンドが実行されるので、ユーザの相互作用を必要としないコマンドを指定する必要があります。</p> <p>展開前コマンドと展開後コマンドの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。</p>

zman ユーティリティで deployment-task-create コマンドを使用して展開タスクを作成することもできます。詳細については、『[ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「[展開コマンド](#)」を参照してください。



管理ゾーンを設定して ZENworks® Adaptive Agent(またはインベントリのみモジュール)をデバイスに展開したら、これらのデバイス上でソフトウェアおよびハードウェアアセットの管理を開始する準備が整ったこととなります。

次のセクションでは、デバイスからのソフトウェアおよびハードウェアインベントリの収集、デバイスでのソフトウェア使用状況の監視、ソフトウェアライセンスコンプライアンスの監視について説明します。

- ◆ 47 ページのセクション 5.1 「ソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集」
- ◆ 50 ページのセクション 5.2 「ソフトウェア使用状況の監視」
- ◆ 51 ページのセクション 5.3 「ライセンスコンプライアンスの監視」

## 5.1 ソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集

デバイスのインベントリを行うとき、ZENworks Asset Management はデバイスからソフトウェアおよびハードウェアの情報を収集します。ZENworks コントロールセンターを使用すると、個別のデバイス向けのインベントリを表示したり、特定の基準に基づいて複数のデバイス向けのレポートを生成したりすることができます。

ソフトウェアインベントリは、特定のアプリケーションの使用状況を追跡したり、使用しているアプリケーションのすべてのコピーについて十分なライセンスがあることを確認するなど、いろいろな目的に使用できます。たとえば、会社でワープロソフトウェアのライセンスを 50 所有するとします。ソフトウェアインベントリを行い、60 個のデバイスにインストールされていることが判明しました。つまり、ライセンス契約に準拠していないこととなります。ところが、過去 6 か月間のソフトウェアに関する使用状況レポートを確認すると、実際には 45 個のデバイスしか使用していないことがわかりました。ソフトウェアを使用していない 15 個のデバイスからソフトウェアをアンインストールして、ライセンス契約に準拠するようにします。

ハードウェアインベントリは、特定のソフトウェアを実行するための要件をハードウェアが満たすことを確認するなど、いろいろな目的に使用できます。たとえば、経理部で会計ソフトウェアを新しいバージョンにするとします。新しいソフトウェアでは、プロセス、メモリ、ディスク容量などの要件が強化されています。デバイスから収集されるハードウェアインベントリを使用して、2 つのレポート、すなわち、要件を満たすすべてのデバイスのリストを表示するレポートと、要件を満たさないデバイスのリストを表示するレポートを作成できます。レポートに基づいて、ソフトウェアを準拠デバイスに配布し、非準拠デバイスにアップグレード計画を作成します。

デフォルトでは、デバイスは毎月 1 日の AM1:00 に自動的にスキャンされます。スケジュールおよびその他多くの [インベントリ] 環境設定を ZENworks コントロールセンター [環境設定] タブで変更することができます。

次のセクションでは、デバイススキャンの開始と収集したインベントリの使用について説明します。

- ◆ 48 ページのセクション 5.1.1 「デバイススキャンの開始」

- ◆ 48 ページのセクション 5.1.2 「デバイスインベントリの表示」
- ◆ 49 ページのセクション 5.1.3 「インベントリレポートの生成」
- ◆ 50 ページのセクション 5.1.4 「詳細の参照場所」

## 5.1.1 デバイススキャンの開始

デバイスのスキャンはいつでも開始できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 スキャンするデバイスが見つかるまでサーバまたはワークステーションフォルダをナビゲートします。
- 3 デバイスをクリックして詳細を表示します。



- 4 左ナビゲーションパネルにあるタスクリストで、[サーバインベントリスキャン] または [ワークステーションインベントリスキャン] をクリックしてスキャンを開始します。

[クイックタスクステータス] ダイアログボックスにはタスクの状態が表示されます。タスクが完了したら、[インベントリ] タブをクリックしてスキャンの結果を表示します。

zman ユーティリティで `inventory-scan-now` コマンドを使用してデバイスをスキャンすることもできます。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「インベントリコマンド」を参照してください。

## 5.1.2 デバイスインベントリの表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 スキャンするデバイスが見つかるまでサーバまたはワークステーションフォルダをナビゲートします。
- 3 デバイスをクリックして詳細を表示します。

#### 4 [インベントリ] タブをクリックします。



### 5.1.3 インベントリレポートの生成

ZENworks Asset Managementは、いくつかの標準レポートを含んでいます。また、インベントリ情報の異なるビューを提供するためにカスタムレポートを作成することができます。

#### 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。



#### 2 [インベントリ標準レポート] パネルで、[ソフトウェアアプリケーション] をクリックします。

インベントリレポートグループ > ソフトウェアアプリケーション

名前	説明
<a href="#">アンチウイルス/アンチスパイウェア詳細</a>	インストールされているデバイスへのリンクのあるアンチウイルス/アンチスパイウェア定義ファイル
<a href="#">カテゴリによるソフトウェアアプリケーション</a>	カテゴリおよびサブカテゴリによるインストール済みソフトウェア製品のカウント
<a href="#">製造元によるソフトウェアアプリケーション</a>	製造元によるインストール済みソフトウェア製品のカウント
<a href="#">OSおよび製品によるソフトウェアアプリケーション</a>	製品名によるインストール済みソフトウェア製品のカウント
<a href="#">シリアル番号の複製</a>	同じシリアル番号の複製インスタンスでインストールされたソフトウェア製品のリスト
<a href="#">高帯域幅アプリケーション</a>	KaZaaおよびGnutellaなどの一般的なマルチメディアおよびファイル共有アプリケーションのカウント
<a href="#">ホットフィックス詳細</a>	インストールされているデバイスのリストへのリンクのある、ホットフィックスおよびセキュリティパッチ
<a href="#">Microsoft製品</a>	Microsoft特有の分類によってグループ化された、インストール済みMicrosoft製品のカウント
<a href="#">オペレーティングシステム</a>	インストール済みオペレーティングシステムによるデバイスのカウント
<a href="#">OSサービスパック</a>	インストール済みオペレーティングシステムおよびサービスパックによるデバイスのカウント

- 3 [オペレーティングシステム] レポートをクリックしてレポートを生成します。
- レポートの下部にあるオプションを使用して、生成されたレポートを Microsoft Excel\* スプレッドシート、CSV (カンマ区切り値) ファイル、PDF ファイル、または PDF Graph ファイルとして保存できます。

## 5.1.4 詳細の参照場所

インベントリの詳細については、『ZENworks 10 アセットインベントリリファレンス』を参照してください。

## 5.2 ソフトウェア使用状況の監視

デバイスについてインベントリを行った後で、デバイスのアプリケーションの使用状況を表示するレポートを実行できます。ZENworks Asset Management には、製品別、ユーザ別、デバイス別のアプリケーション使用状況に関する標準レポートが組み込まれています。また、より詳細な、より重点を絞った情報を提供するようにレポートをカスタマイズすることもできます。たとえば、アセット管理には過去 90 日間使用されていないアプリケーションを表示する、事前定義済みのカスタムレポートも組み込まれています。

特定のアプリケーションの使用状況を表示するレポートを実行するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[アセット管理] タブをクリックし、次に [ソフトウェア使用状況] タブをクリックします。



- 2 [ソフトウェア使用状況標準レポート] パネルで、[アプリケーション使用状況] をクリックすると、アプリケーション使用状況レポートのリストが表示されます。



- 3 [レポート] パネルで、[製品別ローカルアプリケーション使用状況] をクリックします。

製品ごとのアプリケーション使用状況 (ローカル)		実行日: 09/05/12		
製品	10	インストールされているソフトウェア製造元	5	デバイス
製造元	インストール			
Apache Software Foundation	1			
Full Circle Software	4			
Irfan Skiljan	1			
Microsoft	74			
Mozilla.org	4			
Novell	55			
Sun	3			
Sun Microsystems	17			
Sybase	1			
TechSmith	2			

[Excel](#) [CSV](#) [PDF](#) [グラフ](#)

レポートは、デバイスにインストールされている、ソフトウェア制作会社別にグループ化されたすべての製品を表示します。

- 4 確認対象の製品の制作会社を検索し、[インストール] カラムの数をクリックすると、インストールされている製品が表示されます。

得られたレポートには、各製品の現在のインストール数、インストール数のうち使用されているものの数、最後に使用された日時などの使用状況情報が示されます。

- 5 レポートの対象期間を変更する場合、または表示された製品の一覧(全製品、使用している製品、または使用していない製品)を変更する場合は、レポートの最下部にある [期間の変更] / [フィルタ] をクリックします。

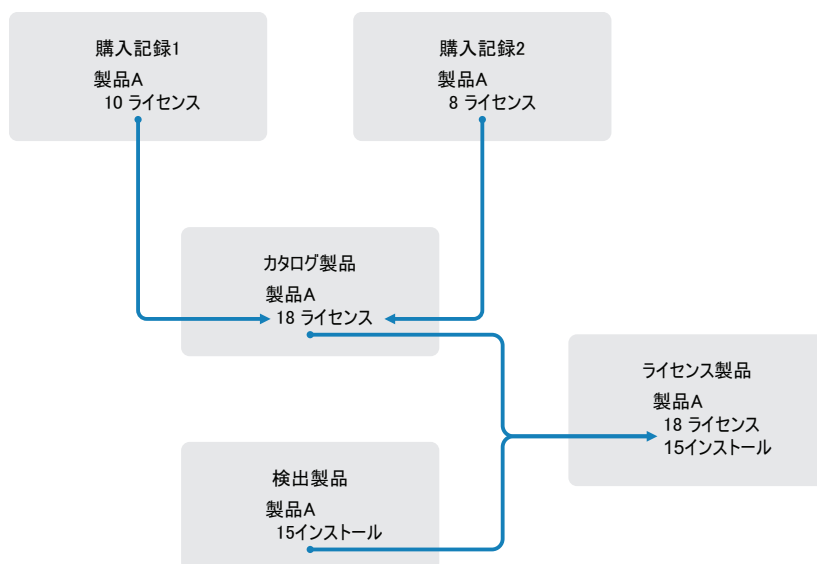
ほかにも、標準および事前定義済みのカスタムレポートなど、使用できるものがたくさんあります。アプリケーション使用状況レポートの詳細については、『ZENworks 10 アセットインベントリリファレンス』を参照してください。

## 5.3 ライセンスコンプライアンスの監視

ZENworks Asset Management では、インストール済みのソフトウェア製品をインベントリスキャン時に検出して、購入したソフトウェア製品に関する情報を比較することで、ソフトウェアライセンス契約の準拠を確認することができます。

コンプライアンス監視の実行を開始する前に、次の例とそれに続くテキストで説明されているように、関連するコンポーネントやその機能について把握する必要があります。

図 5-1 ライセンスコンプライアンスコンポーネント



- ◆ 管理ゾーンにあるデバイスをスキャンして、デバイスにインストールされているソフトウェア製品のリストを作成します。これらは、**検出製品**と呼びます。上記の例では、インベントリスキャンで、**ProductA** が 15 個のデバイスにインストールされていることがわかります。
- ◆ 組織で購入したソフトウェア製品を示す**カタログ製品**を作成します。一般に、各カタログ製品は特定の製作会社の部品番号に対応します。上記の例では、**ProductA** だけがカタログ製品です。ただし、**ProductA**、**ProductA Upgrade**、**ProductB** などのカタログ製品がある場合もあります。カタログ製品の追加は、購入記録をインポートしたり、カタログ製品を手動で作成して行います。
- ◆ ソフトウェア製品の購入注文または請求書を示す**購入記録**を作成(またはインポート)します。購入記録の各細目には、カタログ製品と購入数量が表示されます。カタログ製品が複数の購入記録にリストされている場合、そのカタログ製品の総ライセンス数は両方の購入記録の購入数量に等しいです。上記の例において、1つの購入記録には**ProductA** の 10 個のライセンスがあり、もう 1つの購入記録には 8 個のライセンスがあります。**ProductA** の総ライセンス数は 18 です。
- ◆ **ライセンス製品**を作成し、検出された対応製品とカタログ製品をライセンス製品に関連付けます。これを行うことで、製品のライセンス数やインストール数が示された単一のライセンス製品を確認できます。その結果、製品の使用状況が製品ライセンス契約に準拠しているかどうかを示されます。上記の例で、**ProductA** のライセンス数は 18 個で、15 個のデバイスにインストールされているので、**ProductA** はライセンス契約にコンプライアンスしています。

次のセクションでは、ライセンスコンプライアンスの監視の実行手順について説明します。この手順では、すでにデバイスのスキャンを行い、インストールされたソフトウェア製品を検出したものと想定します。選択していない場合は、**47 ページのセクション 5.1 「ソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集」**を参照してください。

- ◆ **53 ページのセクション 5.3.1 「ソフトウェア購入を記録する」**
- ◆ **55 ページのセクション 5.3.2 「ライセンス製品の作成」**
- ◆ **57 ページのセクション 5.3.3 「コンプライアンスデータの表示」**

### 5.3.1 ソフトウェア購入を記録する

ソフトウェアの購入を記録するには、購入製品がカタログ製品として存在することを確認してから、購入記録を作成する必要があります。これを実行する最も簡単な方法は、購入注文が記載されたインポートファイルを使用することです。インポートファイルを使用すると、購入記録が作成され、まだ製品カタログにリストされていない製品が追加されます。購入記録をインポートするには、ソフトウェア販売者から、ZENworks Asset Management がサポートする形式のいずれかの形式でインポートファイルを提供してもらう必要があります。インポートファイルを使用できない場合は、必要なカタログ製品と購入記録を手動で作成できます。

- ◆ 53 ページの「購入記録のインポート」
- ◆ 54 ページの「カタログ製品と購入記録を手動で作成する」

#### 購入記録のインポート

ZENworks Asset Management は、いくつかのソフトウェア販売者のインポートファイル形式をサポートします。

- ◆ CompuCom ソフトウェアコンプライアンスレポート
- ◆ Insight ZENworks Asset Management 販売者コネクタレポート
- ◆ KMD アセットレポート
- ◆ SHI ライセンスコンプライアンスレポート
- ◆ Softchoice 製品履歴レポート

ソフトウェア販売者からのインポートファイルがなく、独自にインポートファイルを作成する場合は、ZENworks Asset Management 標準インポートファイル形式を使用できます。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management リファレンス』の **ZENworks Asset Management インポートファイルの形式** を参照してください。

購入記録をサポートされているファイル形式のいずれかでインポートするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[アセット管理] タブをクリックし、次に [ライセンス管理] タブをクリックします。
- 2 [ライセンス管理] パネルで、[購入記録] をクリックします。

[ライセンス管理](#) > [購買記録](#)



- 3 [アクション] > [インポートの開始] の順にクリックします。
- 4 [インポート] ダイアログボックスで、[ブラウズ] をクリックし、インポートファイルを見つけて選択します。
- 5 [OK] をクリックして、インポートを開始します。

インポート中、購入記録リストの進行状況が表示されます。[インポートステータス] タブをクリックしてインポートの進捗を確認できます。インポートが完了すると、新しい購入記録がリストに追加されます。

インポートプロセスの一部として、ZENworks Asset Management は、まだ製品カタログに含まれていない購入記録製品のカタログ製品を作成します。

**6** [55 ページのセクション 5.3.2 「ライセンス製品の作成」](#)に進んでください。

## カタログ製品と購入記録を手動で作成する

- 1** ZENworks コントロールセンターで、[アセット管理] タブをクリックし、次に [ライセンス管理] タブをクリックします。
- 2** 購入記録に含める製品のカタログ製品を作成します。手順は次のとおりです。
  - 2a** [ライセンス管理] パネルで、[カタログ製品] をクリックします。
  - 2b** 「新規」 > [カタログ製品] の順にクリックして、新規カタログ製品の作成ウィザードを起動します。
  - 2c** 次のフィールドに入力します。

**製造元**：ソフトウェア制作会社をリストから選択します。正しい製造元がリストにない場合は、製造元名を入力します（例、Novell、Symantec、Microsoft など）。

**製品名**：製品の名前を入力します。製品の名前は、製品カタログで一意でなければなりません。


**製品タイプ - 注**：これらのフィールドは、オプションです。これらを使用して製品をさらに絞り込むことができます。

**除外**：このチェックボックスは選択しません。
  - 2d** [次へ] をクリックして [概要] ページを表示してから、[完了] をクリックして、製品をカタログに追加します。
  - 2e** [ステップ 2b](#) から [ステップ 2d](#) までを繰り返し、追加のカタログ製品を作成します。
  - 2f** 完了したら、[ライセンス管理]（ページの最上部にあるブレッドクラムパスにある）をクリックし、[ライセンス管理] ページに戻ります。
- 3** 購入記録を作成します。手順は次のとおりです。
  - 3a** [ライセンス管理] パネルで、[購入記録] をクリックします。
  - 3b** 「新規」 > [購入記録] の順にクリックし、新規購入記録の作成ウィザードを起動します。
  - 3c** 次のフィールドを入力します。

**PO 番号**：ソフトウェア製品購入と関連付けられた購入注文番号または請求書番号を指定します。

**注文日付**：ソフトウェアの購入日付を選択します。

**受信者 - 販売者**：これらのフィールドは、オプションです。これらを使用して購入記録を詳しく確認することができます。
  - 3d** [次へ] をクリックして [概要] ページを表示します。
  - 3e** [追加のプロパティの定義] ボックスを選択してから、[完了] をクリックして、購入記録を作成し、その [購入詳細] ページを表示します。
  - 3f** [追加] をクリックして、[購入詳細の追加] ダイアログボックスを表示してから、次のフィールドを入力します。

**製品名**： をクリックして、購入記録に組み込むライセンス製品を表すカタログ製品を参照し、選択します。

**数量** : 購入製品の数量を指定します。たとえば、選択したカタログ製品が ProductA 10 パックで、購入注文が ProductA 10 パック 5 個の場合は、5 を指定します。

**ユニット MSRP - 増値** : これらのフィールドは、必須です。メーカー希望小売価格 (MSRP)、支払った価格 (ユニット単位)、および増値を指定します。

**請求書番号 - コメント** : これらのフィールドは、オプションです。これらを使用して購入をさらに特定することができます。

**3g** [OK] をクリックします。

**3h** **ステップ 3f** から **ステップ 3g** までを繰り返し、購入記録に追加の製品を追加します。

**4** 次のセクションの **ライセンス製品の作成** に進みます。

### 5.3.2 ライセンス製品の作成

購入記録とカタログ製品 (必要に応じて) を作成してソフトウェア購入を記録した後、ライセンス製品を作成し、該当する検出製品とカタログ製品をライセンス製品と関連付ける必要があります。続いて、ライセンス製品には、製品のライセンス数とインストール数の総数が反映されます。


ライセンス製品を作成して、ライセンス製品を検出製品とカタログ製品に関連付けるには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[アセット管理] タブをクリックし、次に [ライセンス管理] タブをクリックします。
- 2 [ライセンス管理] パネルで、[ライセンス製品] をクリックします。

[ライセンス管理](#) > [ライセンスされた製品](#)

コンプライアンスの更新開始: 2009/05/11 22:00:01 開始者: (毎日更新)	終了: 2009/05/11 22:00:07 3 個のライセンスされた製品					
<b>ライセンスされた製品</b>						
🔍 新規 ▼ 移動... 削除 アクション ▼						
<input type="checkbox"/>	名前 ▲	ステータス	検出された製品	カタログ製品	ライセンス数量	割り当てられた数量
使用できる項目がありません。						

- 3 [ライセンス製品] パネルで、[アクション] > [自動調整済み: ライセンス製品の作成] の順にクリックして、自動調整ウィザードを起動します。次の表からの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

[ウィザード] ページ	詳細
[検出された製品フィルタ] ページ	<p>調整する検出された製品を選択します。検出された製品を調整すると、それに対応するライセンス製品が作成されます。</p> <p>検出されたすべての製品と調整するには、[すべて]を選択します。特定の製品と調整するには、[次に指定した製品]を選択して製造元と製品名を入力します。</p>
[作成するライセンス製品の選択] ページ	<p>このページには、検出製品向けに作成されるライセンス製品のリストが表示されます。作成するライセンス製品は選択または選択解除できます。ライセンス製品は、そのチェックボックスがオンになっている場合にのみ作成されます。</p> <p>さらに、ウィザードでカタログ製品と検出製品が一致した場合、そのカタログ製品もリストされます。カタログ製品を選択した場合、そのライセンスはライセンス製品と関連付けられます。</p> <p>ウィザードでカタログ製品と検出製品を一致させることができない場合は、ウィザードを完了してからカタログ製品を手動で割り当てることができます。</p>
[宛先フォルダ] ページ	<p>新規のライセンスされた製品を保管するフォルダを選択します。</p> <p>フィールドのデフォルト値は現在のフォルダです(自動調整ウィザードを起動したフォルダ)。別のフォルダを指定するには、 をクリックしてフォルダを参照して選択します。既存のフォルダを指定します。選択ダイアログを使用して新規フォルダを作成することはできません。</p>
[ライセンスエンタイトルメント] ページ	<p>ライセンスエンタイトルメントの説明を追加します。説明には一般に、ソフトウェア購入が反映されます(たとえば、[最初の購入:100 パック]または[バージョン5~6:100 アップグレード])。</p> <p>次のライセンスモデルのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>インストールごと</b>: インストールごとにソフトウェアがライセンスされます。</li> <li>◆ <b>OEM</b>: ソフトウェアがOEMパッケージの一部としてライセンスされます。</li> <li>◆ <b>マシン</b>: ソフトウェアがマシンごとにライセンスされます。</li> </ul>
[自動調整作成サマリ] ページ	<p>データを確認し、[終了]をクリックしてライセンス製品を作成し、関連の検出された製品およびカタログ製品と調整します。</p>

- 4 コンプライアンスの監視に関する情報については、次のセクション、「**コンプライアンスデータの表示**」に進みます。

### 5.3.3 コンプライアンスデータの表示

ライセンス製品のコンプライアンスステータスの監視に使用できるビューは2つあります。[ライセンス製品] ページを表示して、すべての製品のコンプライアンスステータスの概要を把握したり、ソフトウェアコンプライアンスレポートを生成してさらに詳細な情報を確認したりすることができます。

- ◆ 57 ページの「コンプライアンスステータスの概要を確認する」
- ◆ 57 ページの「ソフトウェアコンプライアンスレポートを生成する」

#### コンプライアンスステータスの概要を確認する

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[アセット管理] タブをクリックし、次に [ライセンス管理] タブをクリックします。
- 2 [ライセンス管理] パネルで、[ライセンス製品] をクリックし、[ライセンス製品] ページを表示します。

[ライセンス管理](#) > [ライセンスされた製品](#)

コンプライアンスの変更開始: 2009/05/11 22:00:01  
最終更新: (毎日更新)

表示: 2009/05/11 22:00:07  
1 個のライセンスされた製品

ライセンスされた製品						
新規 移動... 削除 アクション						
名前	ステータス	検出された製品	カタログ製品	ライセンス数	割り当てられた数	
Microsoft Office Professional 2003 2003		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	5	0	
Microsoft Windows Server 2003 5.2		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1	0	
Microsoft Windows XP Professional 5.1		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1	0	

1-3/3 25 項目の表示

ライセンス製品リストには、すべてのライセンス製品と現在のコンプライアンスステータスが示されます。

- ◆ ソフトウェア製品は正しくライセンスされています。購入ライセンスの数はインストール数と同じです。
- ◆ ソフトウェア製品はライセンス切れです。購入ライセンス数はインストール済みの数よりも多いです。
- ◆ ソフトウェア製品はライセンスがありません。購入ライセンス数はインストール済みの数よりも少ないです。

#### ソフトウェアコンプライアンスレポートを生成する

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[アセット管理] タブをクリックし、次に [ライセンス管理] タブをクリックします。
- 2 [ライセンス管理] パネルで、[ライセンス管理レポート] をクリックします。

ライセンス管理の標準レポート

グループ

- ソフトウェアコンプライアンス
- 未調査の製品
- 購入数
- スイート
- その他のレポート

ライセンス管理のカスタムレポート

新規 編集 削除 アクション

名前	レポートカウント
ソフトウェアコンプライアンス	4

1-1/1 10 項目の表示

- 3 [ライセンス管理の標準レポート] パネルで、[ソフトウェアコンプライアンス] をクリックします。
- 4 [レポート] パネルで、[コンプライアンスレポート] をクリックします。

製造元	製品	ライセンス	インストール済み数	使用されたライセンス以上数	ライセンス以下数	アクティブな使用数
Firefox		インベントリ	1	2	0	2

ライセンス別のコンプライアンスデータが示されているレポートが表示されます。データはコンプライアンスステータス、製造元と値、または人口統計の条件別にフィルタできます。特定のライセンス製品のコンプライアンスの詳細を確認するには、[ライセンス数] を展開します。その他のレポートの情報については、『ZENworks 10 アセットインベントリリファレンス』を参照してください。

# デバイスリタイア

デバイスをリタイアすると、デバイスは ZENworks 管理ゾーンから削除されます。デバイスのリタイアは、デバイスを削除するのとは異なります。デバイスをリタイアしても、GUID は保持されます ( 反対に、デバイスを削除するとデバイスの GUID も削除されます )。結果として、すべてのインベントリ情報は保持されたままでアクセス可能ですが、すべての割り当て ( フォルダ、構成設定など ) は削除されます。後でデバイスのリタイアを解除する場合、割り当ては復元されます。管理対象デバイスとインベントリされたデバイスの両方をリタイアできます。

- 59 ページのセクション 6.1 「管理対象デバイスをリタイアする」
- 60 ページのセクション 6.2 「インベントリのみデバイスをリタイアする」

## 6.1 管理対象デバイスをリタイアする

管理対象デバイスのリタイアまたはリタイア解除を行うには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [サーバ] または [ワークステーション] フォルダの横にある下線付きのリンクをクリックすると、ご使用の ZENworks システムに含まれるサーバまたはワークステーションのリストが表示されます。

ステータス	名前	タイプ	オペレーティングシステム	最近の連絡	使用停止
<input type="checkbox"/>	Windows 2000 Servers	動的サーバグループ			
<input type="checkbox"/>	Windows Server 2003	動的サーバグループ			
<input type="checkbox"/>	Windows Server 2008	動的サーバグループ			
<input type="checkbox"/>	rawhide	サーバ	win2003r2-ee-sp2-x86	17:18	

- 3 サーバまたはワークステーションの前にあるチェックボックスをオンにします ( デバイスは複数選択できます )。

ZENworks プライマリサーバをリタイアするには、まずそれを降格させる必要があります。詳細については、『ZENworks 10 Management システム管理リファレンス』の「[プライマリサーバの親子関係の変更](#)」を参照してください。

- 4 [アクション] > [デバイスのリタイア] の順にクリックします。

または

[アクション] > [リタイア解除] の順にクリックします。

アイコンがリタイアしたデバイスの [サーバ] または [ワークステーション] リストの [状態] カラムに表示されます。時刻の上にマウスを乗せると、詳細な日付と時刻が表示されます。

## 6.2 インベントリのみデバイスをリタイアする

インベントリのみデバイスのリタイアまたはリタイア解除を行うには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] > [インベントリ済み] の順にをクリックします。
- 2 [サーバ] または [ワークステーション] フォルダの横にある下線付きのリンクをクリックすると、ご使用の ZENworks システムに含まれるサーバまたはワークステーションのリストが表示されます。

ステータス	名前	タイプ	オペレーティングシステム	最近の連絡	使用停止
<input type="checkbox"/>	Windows 2000 Servers	動的サーバグループ			
<input type="checkbox"/>	Windows Server 2003	動的サーバグループ			
<input type="checkbox"/>	Windows Server 2008	動的サーバグループ			
<input type="checkbox"/>	rawhide	サーバ	win2003r2-ee-sp2-x86	17:18	

- 3 リタイアまたはリタイア解除するサーバまたはワークステーションの前にあるチェックボックスをオンにします (デバイスは複数選択できます)。
- 4 [アクション] > [デバイスのリタイア] の順にクリックします。

または

[アクション] > [デバイスのリタイア解除] の順にクリックします。

アイコンがリタイアしたデバイスの [サーバ] または [ワークステーション] リストの [状態] カラムに表示されます。時刻の上にマウスを乗せると、詳細な日付と時刻が表示されます。

# システムメッセージおよびレポート

# 7

Novell® ZENworks® 10 Asset Management を使用すると、管理ゾーン内のアクティビティをシステムメッセージおよびレポートを通じて監視できます。

- 61 ページのセクション 7.1 「システムメッセージの参照」
- 64 ページのセクション 7.2 「ウォッチリストの作成」
- 65 ページのセクション 7.3 「レポートの生成」

## 7.1 システムメッセージの参照

ZENworks システムでは、ソフトウェアの配布およびポリシーのアプリケーションなどのアクティビティを監視のサポートをするため、通常のメッセージ(情報)、警告メッセージ、およびエラーメッセージが生成されます。

各 ZENworks サーバおよび ZENworks Adaptive Agent は、関連付けられているアクティビティのログを作成します。メッセージは ZENworks コントロールセンターのさまざまなエリアに表示されます。

- **システムメッセージログ** : システムメッセージログは、[システム情報] ページ ( [環境設定] タブ ) にあり、ゾーン内のすべての ZENworks サーバおよび Adaptive Agents からのメッセージを表示します。
- **デバイスメッセージログ** : デバイスメッセージログは、サーバまたはワークステーションの [サマリ] ページにあり、ゾーン内の ZENworks サーバまたは Adaptive Agent によって生成されたメッセージを表示します。たとえば、Workstation1 のメッセージログが、Workstation1 上の Adaptive Agent によって生成されたすべてのメッセージを含みます。

### 7.1.1 メッセージのサマリの参照

ゾーン内に対して生成されたメッセージ数を示す概要を表示できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] タブをクリックします。



[メッセージ概要] パネルには、管理ゾーンのすべてのステータスが表示されます。たとえば、2つのサーバで未承認の重大なメッセージ(当方または他方の管理者がまだ未承認のメッセージ)がある場合、✖カラムに数字の2が表示されます。概要には次のような機能があります。

- root フォルダを表示するオブジェクトタイプをクリックします。たとえば、[サーバ] をクリックして、サーバのルートフォルダを表示します(/サーバ)。
- 任意のオブジェクトタイプで、いずれかのステータスカラム (✖ ⚠ 🟢) の数字をクリックすると、現在そのステータスであるオブジェクトがすべて一覧表示されます。たとえば、通常ステータスのサーバのリストを確認するには、🟢カラムで数字をクリックします。
- オブジェクトタイプについては、[合計] 列でメッセージ数をクリックして、重大、警告、または通常のメッセージのあるオブジェクトすべてを表示します。たとえば、サーバの [合計] メッセージ数をクリックして、何らかのメッセージがあるサーバをすべてリスト表示します。

## 7.1.2 メッセージの承認

メッセージは、承認されるまではメッセージログにあります。メッセージは個別に、またはメッセージログ内のすべてのメッセージを一度に承認することができます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 ZENworks サーバを見つけるまで [Servers] フォルダをナビゲートします。
- 3 サーバをクリックして詳細を表示します。



4 [サマリ] タブで、[メッセージログ] パネルを見つけます。

[メッセージログ] パネルは、ZENworks サーバによって生成されたすべてのメッセージ(情報、警告、およびエラー)を一覧表示します。次の表は、メッセージを承認および削除するためのさまざまな方法を説明しています。

タスク	手順	追加詳細
メッセージの承認	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メッセージをクリックして、[メッセージ詳細情報] ダイアログボックスを表示します。</li> <li>2. [承認] をクリックします。</li> </ol>	<p>メッセージを承認しない場合は、[終了] をクリックして、ダイアログボックスを却下します。これによって、メッセージは [メッセージログ] リストにとどまります。</p>
すべてのメッセージを承認する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 左のナビゲーションペインにある [タスク] リストで、[すべてのメッセージを承認] をクリックします。</li> </ol>	
承認または未承認のメッセージすべてを表示する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. [詳細] ボタンをクリックして、[メッセージログの編集] ページを表示します。</li> </ol>	<p>承認および未承認のメッセージすべてを表示するのに加え、特定のステータスまたは日付のメッセージのみを表示したり、メッセージの詳細を表示したり、メッセージを承認したりすることもできます。</p> <p>そのページにあるタスクの実行についての固有情報については、[メッセージログの編集] ページで [ヘルプ] ボタンをクリックします。</p>
メッセージの削除	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メッセージをクリックして、[メッセージ詳細ログ] ダイアログボックスを表示します。</li> <li>2. [削除] をクリックします。</li> </ol>	<p>メッセージを削除すると、ZENworks システムからメッセージが完全に削除されます。</p>


また、zman ユーティリティで `messages-acknowledge` コマンドを使用して、デバイスに関連付けられたメッセージを承認することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「メッセージコマンド」を参照してください。

### 7.1.3 詳細の参照場所

システムメッセージの詳細については、ZENworks 10 Management システム管理リファレンスの「メッセージログ」を参照してください。

## 7.2 ウォッチリストの作成

ステータスを詳細に監視したいサーバ、あるいはワークステーションがある場合、これらをウォッチリストに追加できます。ウォッチリストは次の情報を提供します。

- ◆ **エージェント**: サーバおよびワークステーションの場合、デバイスの ZENworks Adaptive Agent が現在接続されているか (●)、または接続解除されているか (○) かどうかが表示されます。
- ◆ **✖**: オブジェクトに重大なメッセージがあるかどうかを表示します。
- ◆ **タイプ**: オブジェクトのタイプを表すアイコンを表示します。また、デバイスは  を備え、サーバであることを示す場合があります。アイコンの上にマウスを合わせると説明が表示されます。

- ◆ **名前:** オブジェクトの名前を表示します。名前をクリックしてオブジェクトのメッセージログに移動することができます。

デバイスをウォッチリストに追加するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] タブをクリックします。



- 2 [ウォッチリスト] パネルで、[追加] > [デバイス] に追加するオブジェクトのタイプ (デバイス、バンドル、またはポリシー) を選択します。
- 3 選択ダイアログボックスで、目的のオブジェクトを選択し、[OK] をクリックしてウォッチリストに追加します。  
たとえば、サーバを追加するには、サーバを参照して選択します。

オブジェクトは削除するまでウォッチリスト内に残ります。

## 7.3 レポートの生成

ZENworks Asset Management は、ZENworks レポーティングサーバを使用して、管理ゾーンのレポートを生成します。事前定義済みのレポートまたはカスタムレポートを使用できます。

レポートにアクセスするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。



- 2 [ZENworks レポーティングサーバ] パネルで、[ZENworks レポーティングサーバ InfoView] をクリックして ZENworks レポーティングサーバ InfoView を起動します。ZENworks レポーティングサーバ InfoView ページの初期画面が [ドキュメントリスト] として表示されます。

次の表は、ZENworks レポーティングサーバ InfoView で実行可能な各種のタスクについて説明しています。

タスク	手順
事前定義されたレポートの生成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポートを生成するのに使用するレポートの定義が見つかるまで、事前定義されたレポートフォルダをナビゲートします。</li> <li>2. [アクション] &gt; [スケジュール] の順にクリックするか、レポートを右クリックしてから、[スケジュール] を選択します。</li> </ol>
カスタムレポートの生成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. [InfoView] ツールバーで、[新規] &gt; [Web インテリジェンスドキュメント] の順にクリックします。[ユニバース] ペインが表示されます。</li> <li>2. [データ] タブで、レポートを作成するユニバースオブジェクトに移動し、オブジェクトを右側のウィンドウにドラッグします。</li> <li>3. [Run Query (クエリの実行)] をクリックします。</li> <li>4. レポートを [カスタムレポート] フォルダに保存します。</li> </ol>
レポートの以前のインスタンスの表示	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表示したい以前のインスタンスが見つかるまで、事前定義されたレポートフォルダまたはカスタムレポートフォルダをナビゲートします。</li> <li>2. [アクション] &gt; [履歴] の順にクリックするか、レポートを右クリックしてから、[履歴] を選択します。</li> </ol>
レポートの最新のインスタンスの表示	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表示したい最新のインスタンスが見つかるまで、事前定義されたレポートフォルダまたはカスタムレポートフォルダをナビゲートします。</li> <li>2. [アクション] &gt; [最新のインスタンスの表示] の順にクリックするか、レポートを右クリックしてから、[最新のインスタンスの表示] を選択します。</li> </ol>

タスク	手順
レポートのプロパティの表示	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロパティを表示したいレポートが見つかるまで、事前定義されたレポートフォルダまたはカスタムレポートフォルダをナビゲートします。</li> <li>2. [アクション] &gt; [プロパティ] の順にクリックするか、レポートを右クリックしてから、[プロパティ] を選択します。</li> </ol>

zman ユーティリティで、report-generate-now コマンドを使用してレポートを管理することもできます。また、他のレポートコマンドも使用できます。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「レポートコマンド」を参照してください。

レポート機能の詳細については、『ZENworks 10 Asset Management システムレポートिंगリファレンス』を参照してください。

